

# Veritas™ Operations Manager 管理サーバー 6.1 リリース ノート

# Veritas™ Operations Manager 管理サーバー 6.1 リリースノート

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 6.1

マニュアルバージョン: 6.1 Rev 3

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Veritas、Veritas Storage Foundation、CommandCentral、NetBackup、Enterprise Vault、LiveUpdate は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載の製品は、ライセンスに基づいて配布され、使用、コピー、配布、逆コンパイル、リバースエンジニアリングはそのライセンスによって制限されます。本書のいかなる部分も、Symantec Corporation とそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式、方法であっても複製することはできません。

本書は「現状有姿のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、不侵害の黙示的な保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明、保証は、この免責が法的に無効であるとみなされないかぎり、免責されるものとします。Symantec Corporation は、本書の供給、性能、使用に関する付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアと関連書類は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、Symantec により構内サービスとホスト型サービスのどちらとして提供されるかにかかわらず、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアと関連書類の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状態で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street  
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>このリリースの概要</b> .....	11
	Veritas Operations Manager について .....	11
	Veritas Operations Manager 6.1 の新機能と変更点 .....	12
	SFHA 6.2 機能をサポート .....	12
	認証ドメインを有効化/無効化する機能 .....	12
	Windows ホストでファイルシステムの容量を監視する機能 .....	12
	REST Web サービス API を使って Veritas Operations Manager で 操作を実行する機能 .....	12
	REST Web サービス API を使った Veritas Operations Manager に より検出された新しいオブジェクトの情報にアクセスする機 能 .....	13
	SmartIO キャッシュ領域のサポート .....	13
	オブジェクトのしきい値設定を定義し、通知を受信する機能 .....	13
	FSS (Flexible Storage Sharing) のサポート .....	14
	CVM クラスタに関する情報の表示機能 .....	15
	ポリシー検査の違反に関する統一アラートと中央ビュー .....	15
	リカバリ計画の改善 .....	16
	サイトアウェアサービスグループの操作 .....	16
	Symantec HA Plug-in for vSphere Web Client .....	16
	1 つ以上の ESX サーバーの検出を更新する機能 .....	16
	VMware インフラの拡張されたニアリアルタイム検出 .....	17
	ハードウェアとソフトウェアの互換性の拡張 .....	17
	Windows プラットフォームでのマルチサイト管理のサポート .....	17
	更新されたアラートピック .....	17
	Solaris プラットフォーム上の Control Host Add-on のサポートの廃 止 .....	17
	Veritas Operations Manager 6.1 リリースで解決された問題 .....	18
<b>第 2 章</b>	<b>システムの必要条件</b> .....	21
	オペレーティングシステムの要件 .....	21
	必要な他社のライブラリ .....	21
	Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API .....	21
	システムリソースの要件 .....	22
	データログの領域の算出について .....	23

	管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について .....	26
	Web ブラウザの要件 .....	29
	ネットワークとファイアウォールの要件 .....	29
	インターネットプロトコルバージョンの必要条件 .....	31
	管理対象ホストのコンポーネントの消費について .....	31
<b>第 3 章</b>	<b>ソフトウェアの制限事項 .....</b>	<b>33</b>
	AIX の Network Installation Manager でサポートされない Veritas Operations Manager 6.1 管理対象ホスト .....	34
	管理対象ホストと CommandCentral Storage 管理サーバーは共存できない .....	34
	HP-UX でイニシエータのライブ統計がサポートされない .....	34
	ドライブ文字なしでマウントされた LDM の管理下にあるボリュームでボリュームレイアウトが検出されない .....	34
	Veritas Operations Manager 6.1 でのバックアップとリストアの制限事項 .....	34
	Veritas Operations Manager は同じホスト上にある LDom とゾーンの同時検出をサポートしていない .....	35
	配備関連の制限事項 .....	35
	Windows 管理サーバーの高可用性設定の制限事項 .....	35
	Solaris ゾーン仮想化サポートの制限事項 .....	35
	仮想化をサポートするための検出の制限事項 .....	36
	クラスタの少なくとも 1 つのノードで Symantec Cluster Server を実行していないと VCS の設定検査で違反が報告されない .....	36
	ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項 .....	36
	HP-UX11iv2 ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある .....	37
	Windows ホストにマップされている NetApp と Celerra のアレイから CIFS 共有が検出されない .....	37
	Veritas Operations Manager でクラスタ化された VVR (Veritas Volume Replicator) が正しくサポートされない .....	37
	Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項 .....	37
	RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する .....	37
<b>第 4 章</b>	<b>既知の問題 .....</b>	<b>39</b>
	管理サーバーの問題 .....	39
	Veritas Operations Manager で、制御ホストによる VMware VirtualCenter サーバーの検出が遅延する (2342314) .....	39
	LDAP 認証の実行中に認証ブローカーがクラッシュする (2017319) .....	40

VRTSs_fmh パッケージでの壊れた AT pem ファイルのため、XPRTLD デーモンが Veritas Operations Manager の起動時に失敗する (2145925) .....	40
アップグレードされた Veritas Operations Manager 6.1 セットアップ で、すべての SF Manager 2.x ホストの状態が正常と表示される (2009372) .....	42
管理サーバーをアンインストールすると Storage Foundation for Windows ホストから管理対象ホストパッケージが削除される .....	43
Veritas Operations Manager が無効なアプリケーションの状態を表 示する (2564572) .....	43
仮想マシンの移行後、HMC サーバーおよび VMware vCenter Server の手動更新が必要になる (2605533) .....	44
VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングが、フェールオー バー後に正常に機能しないことがある (2814844) .....	44
VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラ が使われる場合に仮想ストレージの相関が機能しない (3056561) .....	45
共有データストアに関連付けられた RDM ディスクにアクセスできない ESX サーバーが Veritas Operations Manager による RDM ディ スク検出の失敗を引き起こすことがある (2736293) .....	45
Veritas Operations Manager 高可用性 (HA) 環境で管理対象ホスト の状態が誤って報告される (2780631) .....	46
Windows ホストに対して表示される OS のバージョン名が、ロケール が英語のシステムと英語以外のシステムで異なる (3271960) .....	46
実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストでのみ正確であ る (3077899) .....	46
コンソール内でページ間を移動するときに Internet Explorer がセキュ リティ警告を表示することがある (2999524) .....	46
バージョン 5.x より前の管理対象ホストがストレージプロビジョンとボ リューム移行に対してリストされない .....	47
Windows 管理サーバーのデータベースがデフォルト以外の場所にイ ンストールされている場合に VMware 仮想マシンの電源状態の ニアリアルタイム更新が機能しない (3530272) .....	47
Hyper-V Server 上の同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが Veritas Operations Manager で検出されない (3509138) .....	47
クラスターのディスク情報にホストの正しいデータが表示されない (3532746) .....	47
SAN ディスクで MPxIO を有効にした後に LDOM ストレージコンテナ に対するディスクの関連付けが行われない (3370824) .....	48
管理対象ホストの問題 .....	48

IBM XIV ストレージアレイから割り当てられた LUN がある管理対象ホ ストのアップグレード(3.x から 6.1 へ)に関連する問題 (2367519) .....	48
AIX 管理対象ホストでストレージのプロビジョニング操作を実行した後 に Quick I/O のキャッシュの値が有効にならない (2131183) .....	49
Symantec Storage Foundation for Windows 5.1 SP1 を実行する ホスト上のシン LUN がシンとして検出されない(2513466) .....	49
セキュアクラスタ間でリモート切り替え操作が失敗する (2530605) .....	49
HP-UX 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する (2601265) .....	50
vCenter サーバー 5.0 で管理される VMware ESX サーバーのパー ジョン 4.1 で、一部のパフォーマンスグラフを利用できない (2800239) .....	50
Windowsプラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマ ンスグラフを表示できない(3054870) .....	51
ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加 できない(2816487) .....	51
Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合に、不正 な統計が DMP によって返される(2796418) .....	51
クラスタ化された設定のスレーブノードからトリガされたときにディスクグ ループの作成操作が失敗する(3196104) .....	51
HP-UX 管理対象ホストで、パスイニシエータやアレイポート情報が一 部のディスクに対して表示されない(3073128) .....	51
違反したライセンス配備ポリシーが正しく表示されない (3342986) .....	52
完全修飾ホスト名が vfstab ファイルで使われているにもかかわらず ファイルシステムのマウントに使われていない場合に、Solaris の NFS を検出できない(2747735) .....	52
UNIX ホストの場合に[帯域幅 (Bandwidth)]タブに正しくないデータ が表示される(3484788) .....	52
Windows ホストで制御ホストアドオンのアップグレード処理が完了した と表示されるが、vCenter を追加または削除できない (3517058) .....	52
Solaris 管理対象ホストでメモリ使用状況のライブ統計に表示される空 きメモリが正しくない(3518586) .....	53
エージェントレス検出の問題 .....	53
IPv6 アドレスを使ったホストのエージェントレス設定が失敗する (2414252) .....	53
英語以外のロケールを実行する Windows ホストのエージェントレス設 定が失敗する(2484139) .....	53

2 バイト文字セットが含まれるユーザー名を使ったエージェントレスホ ストの設定が失敗する(2427619) .....	54
ボリュームグループを共有ディスク上に作成した場合、ボリュームグ ループと論理ボリュームの情報が一致しない(2567056) .....	54
<b>Storage Insight Add-onの問題</b> .....	54
IBM SVC アレイの最初の検出の後に、パテのキャッシュの手動更新 が必要になることがある(3114164) .....	54
ローカルにレプリケートされた EMC Symmetrix LUN で、最後の同期 時間が SYMCLI バージョン 7.4 以降に対してのみ利用可能で ある(3249430) .....	55
SYMCLI のバージョンが Storage Insight アドオン検出ホストでアップ グレードされたときに Symmetrix エンクロージャの手動検出が必 要になる(3289628) .....	55
セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定できない(2221574) .....	55
<b>Storage Insight Add-onのバージョン 6.1 へのアップグレード後、</b> <b>NetApp エンクロージャが検出されない</b> .....	56
エンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後 に正常に機能しないことがある(2814844) .....	56
<b>EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージ</b> <b>グループに関する情報が定期的に検出されない(2842124)</b> .....	57
<b>Windows ホストで HP EVA エンクロージャを設定するときに、パスワー</b> <b>ドファイルオプションが機能しない(2757601)</b> .....	57
読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオ ペレータロールを持つユーザーに対して、EMC Celerra エンク ローージャの詳細が検出されない .....	58
要求元不明の VPLEX エクステントの場合に、ストレージ計算の一貫 性欠如が発生する(2844028) .....	58
<b>FAST 管理対象ストレージグループの一部のデバイスにティア情報が</b> <b>表示されない(2795204)</b> .....	58
<b>EMC Symmetrix アレイポートとアダプタのパフォーマンスグラフが表</b> <b>示されないことがある(3247859)</b> .....	59
<b>IBM System Storage DS エンクロージャの検出が、Veritas</b> <b>Operations Manager の HiCommand Server 7 でサポートされ</b> <b>ていない(2708346)</b> .....	59
<b>Virtual Business Service の問題</b> .....	59
<b>Veritas Operations Manager が、VBS 開始操作中にクラスタノード</b> <b>が管理サーバーによって管理されているかどうか検証しない</b> <b>(2566050)</b> .....	59
<b>Virtual Business Service 起動操作によって、サービスグループのリ</b> <b>ソース重要度が確認されない(2169223)</b> .....	59



Virtual Business Service の起動および停止操作を行っても複数の 仮想マシンをオンラインやオフラインにすることができない (2177421) .....	60
Storage Insight SDK Add-onの問題 .....	60
Storage Insight プラグインの編集操作とテスト操作が、64 ビット Windows ホストの Internet Explorer を使う環境でサポートされ ない(2826079) .....	60
Internet Explorer Web ブラウザで Storage Insight プラグインのアップ ロード操作が失敗することがある(3485662) .....	60
Fabric Insight Add-onの問題 .....	60
高可用性モードで設定された Veritas Operations Manager 管理サー バーが検出ホストとして使われている場合に SAN スイッチの検 出が失敗する(3513295) .....	61
Symantec HA Plug-in for vSphere Web Clientの問題 .....	61
vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグインを VMware vSphere 5.1 と一緒に使っているときに高可用性 (HA) ダッシュ ボードの状態データとシステムデータが突然消える .....	61
アプリケーションの設定後に通知シンクリソース vCSAppMonNSRes が 障害状態のままになる(3491987) .....	62
Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグイン を登録解除した後も[高可用性(High Availability)]タブが表示 される(3498886) .....	62
ApplicationHA ホストでの Veritas Operations Manager 6.1 管理対 象ホストのインストールまたはアップグレード後に、Symantec ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが失敗す る .....	63
Symantec High Availability ダッシュボードが表示されないことがある (3494263) .....	63
その他の問題 .....	63
仮想マシンの一部になっているディスクのエントリが重複する (2481982) .....	63
Firefox ブラウザを使ってロシア語のユーザー名で管理サーバーを設 定できない .....	64
ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas Operations Manager 6.1 の共存がサポートされない(2739241) .....	64
RVGPrimary リソースのリソース属性が検出されない .....	64
ディスクが 2 TB より大きい場合に正しくないサイズが検出される (3330363) .....	64
VMware VirtualCenter サーバーおよび ESX サーバーの検出で大 文字/小文字が区別されない(2567318) .....	64
MSSQL HA 設定の場合に[インスタンス(instance)]タブにオフライ ンインスタンスが表示されない(3516063) .....	65

	リソースとして設定された仮想マシンが 1 台しか検出されない (3488469) .....	65
	ディスクの接続性ポリシー検査でポリシー検査違反が生成されない (3530346) .....	65
<b>付録 A</b>	<b>マニュアルの補足事項と正誤表</b> .....	<b>66</b>
	Veritas Operations Manager 6.1 オフラインヘルプの正誤表 .....	66
	管理サーバーコンソールの使用 .....	66
<b>付録 B</b>	<b>サポート情報</b> .....	<b>67</b>
	Web 上での Veritas Operations Manager 情報 .....	67
	サポート情報 .....	67
	製品マニュアルの使用 .....	67

# このリリースの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Operations Manager](#) について
- [Veritas Operations Manager 6.1](#) の新機能と変更点
- [Veritas Operations Manager 6.1](#) リリースで解決された問題

## Veritas Operations Manager について

Symantec の Veritas Operations Manager は、Symantec Storage Foundation High Availability 製品用の単一の中央管理コンソールです。この製品では、ストレージリソースとクラスタリソースの監視、視覚化、管理を行い、管理サーバードメイン内のそれらのコンポーネントに関するレポートを生成できます。Veritas Operations Manager を使うと、管理者は多様なデータセンター環境を中央で管理できます。

Veritas Operations Manager を使って、Symantec Storage Foundation High Availability 製品がインストールされていないホストを視覚化してそれらのホストに関するレポートを生成できます。

Veritas Operations Manager では、認可されたユーザーが製品にアクセスして重要な管理タスクを実行できるように、ユーザークレデンシャルを作成できます。その他のユーザーは基本的な一連の機能のみの実行、または情報を表示することのみが可能です。

標準的な Veritas Operations Manager の配備は、次のもので構成されます。

- 管理サーバー
- 管理対象ホスト

Veritas Operations Manager の配備では、次についても検出できる場合があります。

- 仮想化環境
- SAN/NAS またはユニファイドストレージ

- SAN ファブリック

## Veritas Operations Manager 6.1 の新機能と変更点

Veritas Operations Manager のこのリリースは、次の新機能と変更点と拡張機能を備えています。

### SFHA 6.2 機能をサポート

以下をサポートするためには修正プログラム 6.1.0.100 以上を適用する必要があります。

- Red Hat Enterprise Linux 7
- AIX および Solaris 用 SmartIO および FSS (Flexible Storage Sharing) を含む Symantec Storage Foundation High Availability 6.2 機能

### 認証ドメインを有効化/無効化する機能

Veritas Operations Manager 6.1 では、認証ブローカー、LDAP または AD に関連付けられた認証ドメインを有効または無効にすることができます。

### Windows ホストでファイルシステムの容量を監視する機能

Veritas Operations Manager 6.1 を使用して Windows ホストについてファイルシステムの容量を監視できます。

### REST Web サービス API を使って Veritas Operations Manager で操作を実行する機能

Veritas Operations Manager &version で REST Web サービス API を使うと、次の操作を実行できます。

- Virtual Business Service の開始と停止。  
この操作は、サーバーと可用性パースペクティブで実行できます。
- VVR 複製の開始と停止。
- リカバリ計画の実行。
- ストレージテンプレートを使ってストレージをプロビジョニングします。
- エンクロージャのディスク、ボリューム、シンプルなシン再利用を実行してください。

## REST Web サービス API を使った Veritas Operations Manager により検出された新しいオブジェクトの情報にアクセスする機能

Veritas Operations Manager 6.1 REST Web サービスを使用して [表 1-1](#) でリストに登録済みの次の新しいオブジェクトの情報にアクセスできます。

表 1-1 オブジェクトとパースペクティブ

オブジェクト	パースペクティブ
RVG (Replicated Volume Group の略でレプリケートしたボリュームグループの意味)	サーバー (Server)
プライマリとセカンダリ RVG 間のレプリケーションリンク	サーバー (Server)
RVG レプリケーションに参加しているホスト	サーバー (Server)
Smart IO キャッシュ領域	サーバー (Server)
[CVM クラスタ(CVM)]	サーバー (Server)
ストレージプロビジョンのテンプレート	サーバー (Server)
復旧計画	可用性 (Availability)
すべてのタスクの表示	管理サーバーパースペクティブ以外のすべてのパースペクティブ。
すべてのサブタスクの表示	管理サーバーパースペクティブ以外のすべてのパースペクティブ。

## SmartIO キャッシュ領域のサポート

SmartIO は、システムで実行される処理量の多いアプリケーションのための読み書きキャッシュとして、複数のベンダーのソリッドステートデバイス (SSD) の使用をサポートし、全体的な入力/出力性能を改善します。Veritas Operations Manager 管理サーバーコンソールは、次の SmartIO キャッシュ領域関連の操作をサポートします。

- キャッシュの作成、変更、削除。
- SmartIO キャッシュの有効化と無効化。

## オブジェクトのしきい値設定を定義し、通知を受信する機能

Veritas Operations Manager 6.1 管理サーバーコンソールを使うと、各オブジェクトについて [表 1-2](#) に記載されている計測値に対してしきい値を各オブジェクトに設定できます。しきい値条件の違反が起きると、リスクまたは障害が発生します。

表 1-2 オブジェクトと計測値

オブジェクト	計測値
ホスト (Host)	CPU 利用率 使用可能なメモリ 平均 CPU 負荷 (Average CPU Load)
ホストに関連付けられているディスク、ボリューム、パス	平均読み取り遅延 平均書き込み遅延
ホストイニシエータ	平均読み取り遅延 平均書き込み遅延 読み取りキュー長 書き込みキュー長 読み取りエラー 書き込みエラー
クラスタとサービスグループ	フェールオーバーの期間

## FSS (Flexible Storage Sharing) のサポート

FSS (Flexible Storage Sharing) は、クラスタ全体でローカルストレージのネットワーク共有を可能にする、Symantec Storage Foundation Cluster File System High Availability (SFCFSHA) の機能です。ローカルストレージは、DAS (Direct Attached Storage の略で直接接続ストレージの意味) または内部ディスクドライブの形式にすることができます。

Veritas Operations Manager 管理サーバーコンソールは、次のように FSS 関連の操作と FSS 対応クラスタのビューをサポートするようになりました。

- Veritas Operations Manager はディスクグループで FSS が有効化されているかどうかを検出し、その情報をコンソールに表示します。
- Veritas Operations Manager はディスクがエクスポートされているか (ネットワーク共有ディスクか)、リモートか、このどちらでもないかを検出し、コンソールにディスクの FSS 状態を表示します。  
ディスクのエクスポートは、ホストに対して部分的に表示されているディスクで実行される FSS 固有の操作で、このディスクを CVM クラスタのすべてのホストで表示されるようにします。リモートディスクは、クラスタの別のホストからエクスポートされたディスクです。
- 管理サーバーコンソールには、FSS 操作のためのウィザードがあり、既存のディスクグループでの FSS の有効化または無効化と、CVM クラスタで共有して使うための

ディスクのエクスポートまたはエクスポート解除をサポートします。既存の SF 操作のためのウィザードは、必要に応じて FSS 操作をサポートします。

- FSS 対応のディスクグループのためのボリューム作成時に、複数ホストにわたるボリュームのミラー化を行うか指定できます。Cross Enclosure/Host Mirroring ポリシーの署名によって、ミラー化されたボリュームがローカルストレージに基づいていないことを単一のホストから検証可能になります。

お使いの SFCFSA のバージョンとプラットフォームの FSS サポートについては、『Symantec Storage Foundation and High Availability Solutions Software Compatibility List』を参照してください。

## CVM クラスタに関する情報の表示機能

SFCFSA (Symantec Storage Foundation Cluster File System High Availability) には、CVM (Cluster Volume Manager) がコンポーネントとして含まれています。Veritas Operations Manager 管理サーバーコンソールで、ストレージクラスタノードがサーバーパースペクティブに追加され、CVM クラスタに関する情報を監視しやすくなりました。同様のビューが Veritas Operations Manager Web サービス API にも提供されています。サーバーパースペクティブで次の情報を表示できます。

- すべての CVM クラスタの表
- 選択したクラスタ内のオブジェクトに関する詳細情報。ホスト、すべてのホストのすべてのディスク、共有ディスクグループ、ボリュームとファイルシステム、アプリケーション
- クラスタのホスト間で共有またはエクスポートしたストレージの相関

グローバル検索機能で、クラスタがオブジェクトとして含まれるようになりました。クラスタ属性に基づいた検索クエリーを作成し、保存できます。

ディスク、ディスクグループ、ボリュームの操作などのホストから利用可能な操作が、クラスタコンテキストで表示したときに同じオブジェクトから利用可能です。

## ポリシー検査の違反に関する統一アラートと中央ビュー

Veritas Operations Manager でのポリシー検査スキャンは指定した環境を満たしていないリソースを特定します。以前のリリースでは、ポリシー検査スキャンの実行時に違反がホストで検出された場合に、個々のホストを検査する必要がありました。

統一アラート機能はすべての障害を管理して監視するための中央ビューを提供します。データセンターの障害リストにポリシー検査の違反のために生成された障害も含まれるようになりました。あらゆるポリシー違反のオフライン通知を受け取るためのルールを設定できます。特定の違反の詳細はホストレベルでも利用可能で、違反を解決するのに必要な手順を実行可能です。

## リカバリ計画の改善

Veritas Operations Manager 6.1 はリカバリ計画に次の拡張機能を提供します。

- リカバリ計画の各ステップについて説明とタイムアウトを指定可能になりました。
- リカバリ計画を作成または編集しているときに、既存のリカバリ計画からタスクをインポートできます。
- リカバリ計画で、サービスグループがストレッチクラスタに対してサイトウェアになれるようになりました。

他の機能拡張は、各タスクについて開始日時と終了日時を表示する機能、カスタムスクリプト実行のための戻りコードを表示する機能、ユーザーに複数のリカバリ計画の削除を許可する機能が含まれています。

## サイトウェアサービスグループの操作

キャンパスクラスタでのサービスグループの操作の実行中に、サイト関連の情報も提供できるようになりました。サイトレベルの認識を使用することにより、管理者は、ローカルサイトでの障害時に、サービスグループを別のサイトにフェールオーバーすることができます。この機能は次のサービスグループ操作に対してサポートされます。

- オンライン (Online)
- オフライン (Offline)
- スイッチ (Switch)

## Symantec HA Plug-in for vSphere Web Client

Symantec HA Plug-in for vSphere Web Clientでは、Symantec ApplicationHA 操作のために VMware vSphere Web Client を使えます。Symantec HA Plug-in for vSphere Web Client を使うと、VMware vSphere Web Client で Symantec High Availability Console の機能が有効になります。Symantec HA Plug-in for vSphere Web Client をインストールした後、管理サーバーコンソールを使って必要な VMware vCenter Server に Symantec HA プラグインを登録する必要があります。Veritas Operations Manager の 6.1 リリースを使うと、VMware vSphere Web Client で [ダッシュボード (Dashboard)] と [アプリケーションの健全性表示 (Application HealthView)] を表示できます。Symantec HA Plug-in for vSphere Web Client は、Veritas Operations Manager 管理サーバーの高可用性設定で配備することもできます。

## 1 つ以上の ESX サーバーの検出を更新する機能

管理サーバーコンソールを使って、特定の VMware vCenter Server の下で設定されている 1 つ以上の ESX サーバーの検出を更新できるようになりました。



## VMware インフラの拡張されたニアリアルタイム検出

VMware のニアリアルタイム検出は次の機能を組み込むことにより、強化されています。

- vCenter Server と ESX サーバーの同時検出: 管理サーバードメインで構成されている vCenter Server と ESX サーバーの同時検出を可能にします。Veritas Operations Manager の仮想インフラ検出の性能が改善されます。
- ESX サーバーの部分検出: VMware vCenter Server の下で管理されている ESX サーバーを部分的に検出できます。
- Veritas Operations Manager で追加の VMware イベントが検出されるようになりました。作成された VM や 移行された VM などです。

## ハードウェアとソフトウェアの互換性の拡張

Veritas Operations Manager 6.1 では、追加のレイモデル、新しいレイファームウェアとコマンドラインのバージョン、アプリケーションがサポートされます。詳しくは、『Veritas Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)』を参照してください。

## Windows プラットフォームでのマルチサイト管理のサポート

マルチサイト管理の操作が Windows プラットフォームでもサポートされるようになりました。

## 更新されたアラートピック

次の 2 つのアラートピックが Veritas Operations Manager 6.1 で更新されます。

### 古いアラートピック

event.alert.vom.host.low.memory

event.alert.vom.host.high.cpu.util

### 新規アラートピック

event.alert.vom.host.memory.available.risk

event.alert.vom.host.cpu.utilization.risk

Veritas Operations Manager バージョン 6.0 から 6.1 にアップグレードするときで、これらの古いピックを含んでいる管理サーバーで定義済みのルールがある場合、ルールを新規アラートピックで更新する必要があります。

## Solaris プラットフォーム上の Control Host Add-on のサポートの廃止

Veritas Operations Manager バージョン 6.1 は、Solaris 管理対象ホスト 6.1 にインストールされている Control Host Add-on 6.1 をサポートしません。

Solaris ホストに Control Host Add-on 6.0 をすでに設定している場合は、次の操作を実行してください。

- 1 Linux または Windows 管理対象ホスト 6.1 を管理サーバー 6.1 ドメインに追加します。
- 2 Control Host Add-on アドオン 6.1 をホストにインストールします。
- 3 リソース、vCenter、HMC、エージェントレスホストの設定を手動で Solaris ホストから解除し、新しいホストでそれらを再設定します。

この移行のためのスクリプトは提供されません。

## Veritas Operations Manager 6.1 リリースで解決された問題

表 1-3 に、Veritas Operations Manager 6.1 リリースで解決された管理サーバーの問題のリストを示します。

表 1-3 Veritas Operations Manager 6.1 で解決された管理サーバーの問題

問題	説明
3342029	vFiler が NetApp エンクロージャで検出された場合にパフォーマンスタブが表示されない。
3371936	Linux ローカルホストの PAM (Pluggable Authentication Modules) が失敗する。
3376238	ESX ホストを検出できない。
3382393	[設定 (Settings)]、[管理サーバー (Management Server)] の順にクリックすると表示されるビューに、空白のページが表示される。
3386374	Veritas Operations Manager ディスクグループ検索でホストが表示されない。
3388634	Veritas Operations Manager によって計算される SPVU (Symantec Performance Value Unit) の値が正しくない。
3401595	ユーザーのブラウザのロケールが英語またはアメリカ英語以外の言語に設定されている場合、ライセンスのライフサイクルレポートに BIRT 例外が表示される。
3402716	API からデータベースファイルを一覧表示できない。
3403690	[障害の無効化 (Suppress Faults)] または [障害のリストア (Restore Faults)] ビューに、空白のページが表示される。
3409720	英語以外のシステムロケールを利用した管理サーバーで、[設定 (Settings)]、[ソート (SORT)]、[SFHA ダウンロード設定 (SFHA download settings)] の順にクリックすると表示されるビューに、空白のページが表示される。

問題	説明
3412518	ファブリック検出設定が数値の WWN を持つ Cisco スイッチで失敗する。
3428179	Veritas Operations Manager 6.0 で、ホットフィックスの一覧が[設定 (Settings)]、[配備 (Deployment)]、[リポジトリ (Repository)]、[ホットフィックス (Hot fixes)] の順にクリックすると表示されるビューに表示されない。
3436627	Veritas Operations Manager のホットフィックスのインストールが失敗する。
3448174	Veritas Operations Manager に LDAP ドメインを設定できない。
3450721	リソースレベルで上書きされた属性を編集できない。
3461555	Windows RVG が管理サーバーに表示されない。
3468815	RVG が、左側のオブジェクトのツリービューで障害が発生したように表示される。
3504553	HBAAPP が、-P オプション利用時でもテープデバイスを開き、巻き戻す。
3508836	ファブリック、スイッチ、ゾーンに定義された拡張属性が、スケジュール設定済みのデータページ後に削除される。
3509361	vSphere の[仮想化の編集 (Edit Virtualization)]パネル内のエンタリで、スラッシュがドメインとユーザー間のセパレータとして表示されない。
3480301	vSCSI LUN から NPIV へのストレージの移行が Veritas Operations Manager 6.0 でサポートされていない。
3439331	無関係の複数のスクロールバーが画面領域の一部をオーバーレイしている。
3499471	アドオンの直接ダウンロードが失敗する。
3505363	スマートフォルダで結果セットがフィルタ処理されない。

表 1-4 に、Veritas Operations Manager 6.1 リリースで解決された管理対象ホストの問題のリストを示します。

**表 1-4** Veritas Operations Manager 6.1 で解決された管理対象ホストの問題

問題	説明
3369799	ディスクパスが削除された場合にアラートが発生しない。
3387083	リアルタイム検出が、リモートグループ通知用にトリガされていない。
3396404	Veritas Operations Manager 6.0 で、同じ LV_UUID を持つすべてのホストでファイルシステムに障害ありと表示される。

問題	説明
3401547	Veritas Operations Manager 6.0 が、ディスクグループのすべてのディスクが失敗 (Failed) の状態にある場合 Windows の VEA アラートをリッスンしない。
3405147	エージェントレスで検出されたホストで、[ホスト (HOST)]、[ディスクグループ (DiskGroup)]、[DG 名 (DG name)]、[ディスク (Disks)] とクリックすると表示されるビューにディスクが表示されない。
3408281	制御ホストアドオンで Java Runtime Environment (JRE) を更新する必要がある。
3411022	InfiniBand MAC アドレスで Linux 管理対象ホストにセカンドホストを追加できない。
3446094	VVR 帯域幅レポートが Windows プラットフォームで生成されない。
3450713	Windows ホストの管理サーバーコンソールからディスクをオンラインにすることができない。
3485022	HP-UX の管理対象ホストのポート 5634 に脆弱性の問題がある。
3477610	HBA .JSON にレポートされる Symmetrix デバイスのシリアル番号に誤りがあるため、Veritas Operations Manager でサーバーディスクとディスクグループが検出されない。

# システムの必要条件

この章では以下の項目について説明しています。

- [オペレーティングシステムの要件](#)
- [必要な他社のライブラリ](#)
- [システムリソースの要件](#)
- [Web ブラウザの要件](#)
- [ネットワークとファイアウォールの要件](#)
- [管理対象ホストのコンポーネントの消費について](#)

## オペレーティングシステムの要件

Veritas Operations Manager 6.1 のオペレーティングシステムの要件については、『Veritas Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)』を参照してください。

## 必要な他社のライブラリ

このセクションでは、Veritas Operations Manager の実行に必要な他社のライブラリを一覧表示します。

- [「Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API」](#)

## Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API

デバイスに接続されているファイバーチャネルを正しく検出する (HBA とそのターゲットポートの検出を含む) ため、Veritas Operations Manager では、HBA コントローラを実行するすべての Windows 管理対象ホストに 32 ビット SNIA Common HBA API がインストールされている必要があります。

Common HBA API は通常、HBA の製造元のドライバキットの一部として提供されるか、または HBA の製造元のサイトからダウンロードできます。

次の手順に従って、SNIA Common HBA API がすでに Windows ホスト上に存在するかどうかを判断します。

**Windows ホストに 32 ビット SNIA Common HBA API がインストールされているか確認するには**

- 1 regedit コマンドを使って、管理対象ホストでレジストリエディタを開きます。
- 2 次の場所を調べて、SNIA ライブラリ情報を取得します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\SNIA\HBA\hba_model
```

64 ビットプラットフォームでは、Veritas Operations Manager は前提条件として 32 ビットライブラリがインストールされている必要があります。詳しくは HBA の製造元のマニュアルを参照してください。

## システムリソースの要件

このセクションでは、Veritas Operations Manager に必要な CPU コア、メモリ、ディスク領域の容量を示します。次に示す要件は、同じサーバーで実行されている他のソフトウェアアプリケーションで使用されるリソースに加えて必要とされるものです。

管理サーバー:

環境サイズ	CPU コア	メモリ	ディスク容量
小(最大 300 の管理対象ホスト)	4	4GB	5GB
中(最大 1500 の管理対象ホスト)	8	16GB	20GB
大(最大 3500 の管理対象ホスト)	16	32GB	40 GB

- 管理サーバーが Storage Insight Add-on を使ったエンクロージャの詳細検出に使用される場合、4GB のメモリと 5GB のディスク領域を追加します。
- 管理サーバーが仮想化インフラの検出に使用される場合、4GB のメモリと 5GB のディスク領域を追加します。

Veritas Operations Manager のシステムリソース要件の追加考慮事項:

- 少なくとも RAM の 2 倍の大きさのスワップ領域を与えることをお勧めします。
- 製品の最適なパフォーマンスのために、管理対象ホストを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。
- システムリソース要件は、製品が配置される実際の環境に基づいて変わる場合があります。

管理対象ホスト:

- CPU コア: 1
- メモリ: 1GB
- ディスク領域: 2GB
- **Storage Insight Add-on** を使ったエンクロージャの詳細検出に検出ホストとして使用される場合、**4GB** のメモリ **5GB** のディスク領域を追加します。

制御ホスト(制御ホストアドオンのあるホスト)の場合:

- CPU: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとにデュアルプロセッサ 1 つ
- メモリ: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとに **4GB** 制御ホストを仮想化インフラの検出に使う場合には、**4GB** の追加メモリが必要です。
- ディスク領域: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとに **15GB** のディスク領域

---

**メモ:** 上記のいずれかが仮想環境で実行されている場合、製品の最良のパフォーマンスのために、**CPU** コアやメモリなどのリソースを仮想マシン専用にご勧めします。

---

このリリースに関する更新、パッチ、ソフトウェア問題の最新情報については、次の最新ニュースの **TechNote** を参照してください。

## データログの領域の算出について

**Veritas Operations Manager** では、さまざまなリソースのパフォーマンスに関する履歴データが、固定サイズのバイナリファイルに収集されます。循環ラウンドロビンアレイに新しいデータが入ると古いデータが上書きされます。計測値の数、データ挿入の頻度、オブジェクトの数、ロールアップデータベースがバイナリファイルのサイズに影響します。高分解能データは低分解能データに圧縮されます。

パフォーマンスメータリングの統計について詳しくは、『**Veritas Operations Manager** 管理サーバーユーザーズガイド』を参照してください。

**表 2-1** では、各種リソースのデータログに対する領域算出について説明しています。算出では、リソース数の列のデータは標準的な環境に基づいています。収集される計測値の列は、各リソースで収集される計測値の数を表します。たとえば、**DMP** パスの場合、収集される計測値の総数は、読み取りバイト数、書き込みバイト数、平均読み取り時間、平均書き込み時間の **4** つです。

ホスト、ボリューム、ディスク、ファイルシステム、パス、イニシエータのデータログは、管理対象ホストに格納されます。仮想化サーバー、仮想マシン、パス、イニシエータのデータログは、制御ホストに格納されます。ストレージアレイ(ポート、アダプタ、エンクロージャ)

の場合、1 日分のデータログは検出ホストに格納されますが、他のすべてのログは管理サーバーに格納されます。

**メモ:** Veritas Operations Manager が高可用性環境で設定されている場合、ストレージアレイポート、アダプタ、エンクロージャのログは共有ディスクに保存されます。VMware ESX サーバーと仮想マシンのログは共有ディスクに保存されます。

表 2-2 では、Windows プラットフォームのホスト、ファイルシステム、ボリュームおよびディスクのデータログのための領域の算出を一覧表示します。

表 2-1 データログの領域の算出

リソース名	リソース数	収集される計測値の数	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ホスト、VMware ESX サーバー、仮想マシン	1	5	5 分	1 日	24	24
	1	5	2 時間	1 カ月	29	29
	1	5	1 日	1 年	30	30
マルチパス用パス	1000	4	5 分	1 日	18967	19
	1000	4	2 時間	1 カ月	23477	24
イニシエータ	4	9	5 分	1 日	171	43
	4	18	2 時間	1 カ月	423	106
	4	18	1 日	1 年	428	107
エンクロージャ	4	4	5 分	1 日	76	19
	4	8	2 時間	1 カ月	8	2
	4	8	1 日	1 年	190	46
ファイルシステム	100	3	5 分	1 日	1423	14
	100	3	1 日	1 年	1784	18



リソース名	リソース数	収集される計測値の数	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ボリューム	100	4	1分	6時間	2348	23
	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2348	23
	100	4	1日	1年	2379	24
ディスク	100	4	1分	6時間	2348	23
	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2347	23
	100	4	1日	1年	2379	23
ストレージ レイ-アレイ ポート	32	2	30分	1日	304	9
	32	4	2時間	1カ月	751	23
	32	4	1日	1年	761	24
ストレージ レイ-アダプ タ	8	2	30分	1日	76	9
	8	4	2時間	1カ月	188	23
	8	4	1日	1年	190	24
ストレージ レイ-エンク ロージャ	1	1	30分	1日	5	5
	1	2	2時間	1カ月	12	12
	1	2	1日	1年	12	12

表 2-2 Windows ホストのデータログ領域の算出

リソース名	リソース数	収集される計測値	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ホスト	1	5	5 分	1 日	24	24
	1	5	2 時間	1 カ月	29	29
	1	5	1 日	1 年	30	30
ファイルシステム	100	4	5 分	1 日	1898	19
	100	4	2 時間	1 カ月	2348	23
	100	4	1 日	1 年	2379	24
ボリューム	100	4	5 分	1 日	1898	19
	100	4	2 時間	1 カ月	2348	23
	100	4	1 日	1 年	2379	24
ディスク	100	4	5 分	1 日	1898	19
	100	4	2 時間	1 カ月	2347	23
	100	4	1 日	1 年	2379	23

## 管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について

次の表で、管理サーバーデータベースにおける管理対象ホストの情報の更新頻度について説明します。各管理対象ホストの検出は特定の機能領域に焦点を合わせて検出ファミリーに分けられています:

ファミリー	頻度(分単位)	検出される情報
ホスト	1440	ホストのオペレーティングシステム、パッケージ、ネットワーク。  通常、このファミリーに関連する情報のほとんどは頻繁には変わりません。
SF	30	Volume Manager、File System、関連するストレージネットワーク。

ファミリー	頻度(分単位)	検出される情報
VCS	60	Symantec Cluster Server と関連情報。
DB	360	Oracle、DB2、MSSQL、Sybase データベース、これらのストレージの依存関係。
LDR	1440	ホストにインストールされているライセンス。
NR	5	設定の状態と外部障害。
ネーティブ	360	サードパーティのボリューム管理情報。
PCV_NOTIFY	30	管理サーバーと 6.1 以前の管理対象ホストで計算されたポリシー検査の違反。管理対象ホスト 6.1 以降で計算された違反は別の検出を必要としません。
ゾーン	120	Oracle Solaris のゾーンとストレージの依存関係。
LDom	120	Oracle Solaris LDom、関連 CPU、およびメモリの情報。
KVM	120	KVM、KVM とホストとの関連付け。
Hyper-V	120	仮想マシンとストレージ検出。
LPAR	360	ホスト、ゲスト、ストレージ情報。
VMware	360	ESX サーバー、仮想マシン、およびストレージの依存関係。 <b>メモ:</b> この情報は、制御ホストのアドオンが制御ホストとして指定される管理対象ホストにインストールされる時のみ検出されます。

ファミリー	頻度(分単位)	検出される情報
エージェントレス	360	<p>制御ホストでエージェントレスの対象に設定されているホストに関する次の情報:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ IP アドレス、オペレーティングシステム、CPU とメモリの使用状況</li><li>■ ホスト上のホストバスアダプタ (HBA)</li><li>■ ホスト上のディスクに加え、それらのディスクとアレイ LUN やマルチパスとの関連付け</li><li>■ ネーティブボリュームマネージャ上のボリュームとボリュームグループ</li><li>■ ファイルシステムのマウントポイントに加え、ファイルシステムとディスクとの関連付け</li><li>■ VMware ゲスト環境では、ゲストと仮想マシンとの関連付けに加え、ゲスト内のストレージと、ESX サーバーからエクスポートされたストレージとの関連付け</li></ul> <p><b>メモ:</b> この情報は、制御ホストのアドオンが制御ホストとして指定される管理対象ホストにインストールされる時のみ検出されます。</p>
エンクロージャ	360	<p>論理デバイス、物理デバイス、ホストのアソシエーション、レプリケーション、および他のエンクロージャ固有のプロパティ。これは <b>Storage Insight Add-on</b> によって有効化されます。</p>
スイッチ	360	<p>スイッチ、スイッチポート、ゾーン、ゾーンのメンバーおよび他の製造元固有のプロパティ。これは <b>Fabric Insight Add-on</b> によって有効化されます。</p>

---

**メモ:** Storage Foundation ファミリーと Symantec Cluster Server ファミリーの検出はイベント駆動型であり、スケジュールが設定されます。これは管理対象ホストの設定が変更されると検出がトリガされることを意味します。このため、次の更新時に Veritas Operations Manager データベースでこの情報が更新されます。設定の変更が管理対象ホストで検出されなければ、管理対象ホストと管理サーバー間の通信は 5 分ごとに発生するハートビート通信に制限されます。複数の管理サーバーに管理対象ホストを接続できます。検出が行われるのは 1 回のみなので、管理対象ホストのパフォーマンスはこのシナリオでは影響を受けません。ホストの設定に従った状態のレポートは、管理対象ホストが報告する管理サーバーの数に基づいて行われます。

---

p.22 の「システムリソースの要件」を参照してください。

## Web ブラウザの要件

Veritas Operations Manager 6.1 用 Web ブラウザの必要条件について詳しくは、『Veritas Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)』を参照してください。

## ネットワークとファイアウォールの要件

複数のドメイン内のホストを管理しようとしている場合は、ネットワーク設定を更新してすべてのドメインのホストを解決してください。

ホストから *localhost* が解決できることを確認する必要があります。

ホストから *localhost* を解決できない場合は、ネットワーク設定を更新して有効にしてください。

高可用性の Veritas Operations Manager 管理サーバーでは、すべてのクラスタノードの仮想 IP と物理 IP の両方のファイアウォール設定を行う必要があります。

Veritas Operations Manager は、表 2-3 に示すデフォルトのポートを使って情報を転送します。

表 2-3 Veritas Operations Manager のインストールで使用されるデフォルトのポート

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
5634	TCP	管理サーバー	管理サーバーの設定	管理サーバーは設定することができません。

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
5636	TCP	管理サーバー	管理サーバーのデータベース設定	管理サーバーは設定することができません。
5634	TCP		管理対象ホストとの管理サーバーの通信	管理対象ホストは管理サーバードメインに追加できません。
5634	TCP	管理対象ホスト	ハートビートを送信する管理対象ホスト。管理対象ホストから管理サーバーにデータをアップロードする場合にも使われます。 <b>メモ:</b> 拡張性とパフォーマンスを最適化するために、管理対象ホスト間でポート <b>5634</b> を開いたままにすることをお勧めします。	管理対象ホストは管理サーバードメインに追加できません。
14161	TCP	Web ブラウザ	管理サーバーコンソールの実行	ユーザーは管理サーバーコンソールにアクセスできません。
162	UDP	Vmware VCenter server	SNMPトラップの受信	管理サーバーは VMWare VCenter から仮想マシンの状態の変更の SNMPトラップを受信できません。 VMware インフラの変更はニアリアルタイム (NRT) で検出できません。
21	FTP	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
80	HTTP	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。
443	HTTPS	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。

## インターネットプロトコルバージョンの必要条件

Veritas Operations Manager の各種コンポーネントが IPV6、IPV4、または混在モードでサポートされます。

表 2-4 に、Veritas Operations Manager の IPV4 と IPV6 のサポートを説明します。

表 2-4 IPV4 と IPV6 のサポート

コンポーネント	IPV6	IPV4	混在モード (IPV4 と IPV6)
管理サーバー (Management Server)	サポート対象外	サポート対象	サポート対象 <b>メモ:</b> 混在モードで実行される管理サーバーでは、管理サーバーの設定中に IPV4 アドレスのみを使ってください。
管理対象ホスト (Managed Host)	サポート対象	サポート対象	サポート対象
制御ホスト (Control Host)	サポート対象	サポート対象	サポート対象

p.29 の「ネットワークとファイアウォールの要件」を参照してください。

## 管理対象ホストのコンポーネントの消費について

Veritas Operations Manager の管理対象ホストコンポーネントは、ある程度の量の CPU、メモリ、ネットワーク帯域幅を各種機能のために消費します。

Veritas Operations Manager のさまざまなプロセスとサービスにより、管理対象ホストには異なる大きさの負荷がかかります。管理対象ホスト上のプロセスとサービスそしてその消費量は次のとおりです。

- UNIX/Linux - XPRTLD、VXDCLID、sfmh-discovery.pl デーモンを使います。これらのデーモンの CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。
- Windows - XPRTLD デーモンを使います。このデーモンの CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。
- 検出 - Veritas Operations Manager での検出は短時間です。したがって、検出の CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。

管理対象ホストのネットワーク帯域幅の消費は、主に、5 分ごとに行われるハートビートに関連しています。ハートビート動作では、1 KB 未満のサイズのデータが管理サーバーに送信されます。データのレポートは、管理対象ホストに関連付けられているストレージオブジェクトで設定が変更された場合にのみ行われます。ある程度の量のネットワーク帯域幅がデータレプリケーションにも使われます。

p.26 の「[管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について](#)」を参照してください。



# ソフトウェアの制限事項

この章では以下の項目について説明しています。

- **AIX** の **Network Installation Manager** でサポートされない **Veritas Operations Manager 6.1** 管理対象ホスト
- 管理対象ホストと **CommandCentral Storage** 管理サーバーは共存できない
- **HP-UX** でイニシエータのライブ統計がサポートされない
- ドライブ文字なしでマウントされた **LDM** の管理下にあるボリュームでボリュームレイアウトが検出されない
- **Veritas Operations Manager 6.1** でのバックアップとリストアの制限事項
- **Veritas Operations Manager** は同じホスト上にある **LDom** とゾーンの同時検出をサポートしていない
- 配備関連の制限事項
- **Windows** 管理サーバーの高可用性設定の制限事項
- **Solaris** ゾーン仮想化サポートの制限事項
- 仮想化をサポートするための検出の制限事項
- クラスタの少なくとも 1 つのノードで **Symantec Cluster Server** を実行していないと **VCS** の設定検査で違反が報告されない
- ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項
- **HP-UX11iv2** ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある
- **Windows** ホストにマップされている **NetApp** と **Celerra** のアレイから **CIFS** 共有が検出されない
- **Veritas Operations Manager** でクラスタ化された **VVR (Veritas Volume Replicator)** が正しくサポートされない

- Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項
- RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する

## AIX の Network Installation Manager でサポートされない Veritas Operations Manager 6.1 管理対象ホスト

NIM (Network Installation Manager) を使って AIX に Veritas Operations Manager 6.1 管理対象ホストをインストールすることはサポートされていません。

## 管理対象ホストと CommandCentral Storage 管理サーバーは共存できない

CommandCentral Storage 管理サーバーがインストールされているホストに Veritas Operations Manager 管理対象ホストをインストールしないでください。インストールが成功しても、管理サーバードメインにホストを追加する操作は失敗します。

## HP-UX でイニシエータのライブ統計がサポートされない

Veritas Volume Manager 5.0 以前のリリースを使用する HP-UX ホストのパフォーマンスグラフに、イニシエータのライブ統計を表示できません。

## ドライブ文字なしでマウントされた LDM の管理下にあるボリュームでボリュームレイアウトが検出されない

Veritas Operations Manager はボリュームマネージャの種類が Microsoft LDM の場合、Storage Foundation for Windows がインストールされていない Windows ホストにドライブ文字なしでマウントされたボリュームのレイアウトを検出しません。結果として、Veritas Operations Manager コンソールでは、このボリュームの [レイアウト (Layout)] 列は [不明 (Unknown)] と表示されます。

## Veritas Operations Manager 6.1 でのバックアップとリストアの制限事項

Linux では、ディザスタリカバリのために、vom\_bkup.pl バックアップスクリプトを使って、高可用性設定で既存の管理サーバーをバックアップおよびリストアすることはできません。

Veritas Operations Manager は同じホスト上にある LDom とゾーンの同時検出をサポートしていない

Windows では、vom\_bkup.pl バックアップスクリプトによって、高可用性設定の既存の管理サーバーをバックアップできます。ただし、高可用性設定をリストアするためにバックアップスクリプトを使うことはできません。この機能は現在サポートされていません。バックアップデータをリストアするには、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。

## Veritas Operations Manager は同じホスト上にある LDom とゾーンの同時検出をサポートしていない

Veritas Operations Manager は同じ Solaris ホスト上に LDom とゾーンが共存している場合、それらの検出をサポートしていません。LDom とゾーンの両方が共存している設定では、Veritas Operations Manager は LDom を検出します。

## 配備関連の制限事項

Veritas Operations Manager 管理サーバーはバージョン 6.0 以前のバージョンからバージョン 6.1 に直接アップグレードすることができません。

バージョン 6.0 以前からアップグレードする場合は、次を実行します。

- 最初にバージョン 6.0 にアップグレードしてから、バージョン 6.1 にアップグレードします。

## Windows 管理サーバーの高可用性設定の制限事項

Veritas Operations Manager は、高可用性環境に Windows 管理サーバーを設定する場合、Windows Server 2008 (64 ビット) と Windows Server 2008 R2 (64 ビット) のみをサポートしています。

Veritas Operations Manager は、Windows 管理サーバーの高可用性設定にディザスタリカバリ機能を設定することはサポートしていません。

## Solaris ゾーン仮想化サポートの制限事項

グローバルゾーンに VRTSsfmh パッケージをインストールする必要があります。非グローバルゾーンには VRTSsfmh パッケージをインストールできません。

Veritas Operations Manager は、Solaris ゾーンの仮想化に対するディスクスライスの検出をサポートしません。Veritas Operations Manager は完全なディスクのみをサポートします。

Veritas Operations Manager での Solaris ゴーストの仮想化は、非グローバルゾーンで実行される Oracle、DB2、Sybase のセキュアデータベースインスタンスの検出をサポートしません。

## 仮想化をサポートするための検出の制限事項

Veritas Operations Manager では、仮想化をサポートするために次のような検出の制限事項があります。

- Veritas Operations Manager は、Linux カーネル仮想マシン (KVM) の環境でのストレージ検出をサポートしません。
- LPAR の場合、Veritas Operations Manager は仮想マシンの電源オン状態しか表示しません。
- HMC サーバーによって順に管理される、LPAR サーバー上に設定された Linux ベースの LPAR ゲスト仮想マシンの場合、オペレーティングシステムおよびオペレーティングシステムのバージョンは検出されません。

## クラスタの少なくとも 1 つのノードで Symantec Cluster Server を実行していないと VCS の設定検査で違反が報告されない

クラスタのいずれかのシステムで Symantec Cluster Server が実行されていなければ Veritas Operations Manager の VCS 設定ポリシー検査は違反を報告しません。また、クラスタにシステムが 1 つしかない場合は、そのシステムで Symantec Cluster Server が実行されていなければ VCS の設定検査は違反を報告しません。

## ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項

Veritas Operations Manager 6.1 には、ディスクとディスクグループ間の関連付けに関連している次の制限事項が存在します。

- ディスクの 1 つのパーティションに、そのディスクでマウントされているファイルシステムが含まれていて、他のパーティションがディスクグループに属している場合、ファイルシステムの詳細表示またはディスクグループの詳細表示でディスク情報を表示することはできません。
- ディスクの 2 つのパーティションが 2 つのディスクグループに属している場合、いずれかのディスクグループの詳細表示でディスク情報を表示することはできません。

## HP-UX11iv2 ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある

HP-UX 11.23 管理対象ホストで検出されるコア密度 (コア数/物理プロセッサ) は、CLI 関連の制限事項によって正しくない可能性があります。コア密度の値が誤っていると、そのホストの SPVU (Symantec Performance Value Unit) 情報を LDR が計算できません。ユーザーはホストに SPVU を手動で割り当てることができます。

## Windows ホストにマップされている NetApp と Celerra のアレイから CIFS 共有が検出されない

Veritas Operations Manager では、非システムアカウントユーザーによって Windows ホストにマップされた NetApp と Celerra のアレイから CIFS (Common Internet File System) 共有が検出されません。

## Veritas Operations Manager でクラスタ化された VVR (Veritas Volume Replicator) が正しくサポートされない

Veritas Operations Manager では、クラスタ環境内の VVR (Veritas Volume Replicator) の複製されたボリュームグループ (RVG) とホストリレーションシップが正しく表示されません。

## Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項

管理サーバーコンソールでは、Windows CVM クラスタ上のクラスタ共有型の SF ディスクグループに対する操作とこのようなディスクグループのボリュームに対する操作が使用できません。

## RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する

Veritas Operations Manager コンソールでは、RHEL 7 管理対象ホストをエージェントから追加すると、操作が失敗することがあります。このエラーは、RHEL 7 に新しく導入されたファイアウォールデーモン (firewalld) が原因で発生します。

回避策:

次のいずれかを実行します。

- 次のコマンドを使用してファイアウォールデーモンの状態を調べます。

```
systemctl status firewalld
```

デーモンが実行されている場合、次のコマンドを使用してオフにする必要があります。

```
systemctl stop firewalld
```

- 特定のポートのみを許可する場合には、次のコマンドを使用します。

```
firewall-cmd --permanent --zone=public --add-port=port/tcp
```

ここで、*port* は許可するポート番号です。

# 既知の問題

この章では以下の項目について説明しています。

- [管理サーバーの問題](#)
- [管理対象ホストの問題](#)
- [エージェントレス検出の問題](#)
- [Storage Insight Add-onの問題](#)
- [Virtual Business Service の問題](#)
- [Storage Insight SDK Add-onの問題](#)
- [Fabric Insight Add-onの問題](#)
- [Symantec HA Plug-in for vSphere Web Clientの問題](#)
- [その他の問題](#)

## 管理サーバーの問題

次の問題は Veritas Operations Manager 管理サーバーに関連しています。

### Veritas Operations Manager で、制御ホストによる VMware VirtualCenter サーバーの検出が遅延する(2342314)

Veritas Operations Manager では、制御ホストを使った VMware VirtualCenter サーバーの検出が完了するまで長い時間がかかることがあります。この問題が起きる理由は、VirtualCenter サーバーに関連付けられているデータストアの一部が時間どおり応答せず、その結果タイムアウトになるからです。

回避策:

VMware SDK のログから、VirtualCenter サーバーの検出遅延の原因になっているデータストアを識別できます。データストアが含まれる VirtualCenter サーバーでは、[管理 (Administration)]、[vServer の設定 (vServer Settings)]、[タイムアウトの設定 (Timeout Settings)] の順に選択し、タイムアウトをより低い値に設定します。

## LDAP 認証の実行中に認証ブローカーがクラッシュする (2017319)

LDAP が PAM と TLS を有効にして設定されているホストで、LDAP 認証を実行している間に、認証ブローカーがクラッシュすることがあります。

回避策:

次の変更を実行します。

- `start_tls` を無効にします。
- `authsequence` から PAM を削除します。

`start_tls` パラメータを無効にするには

- ◆ `/etc/ldap.conf` ファイルで、`ssl start_tls` の後ろに次の行を追加します。

```
ssl no
```

`authsequence` から PAM を削除するには

- ◆ `EAT_DATA_DIR/root/.VRTSat/profile/VRTSatlocal.conf` ファイルで、次のエントリから `pam` を削除します。

```
"DefaultAuthSequence"="pam unixpwd nis nisplus"
```

## VRTSsfmh パッケージでの壊れた AT pem ファイルのため、XPRTLD デーモンが Veritas Operations Manager の起動時に失敗する (2145925)

AT pem ファイル (VRTSsfmh パッケージの証明書ファイル) が壊れている場合、XPRTLD デーモンは Veritas Operations Manager の起動時に失敗します。

回避策:



### UNIX で壊れた AT pem ファイルを修復するには

- 1 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを停止します。  

```
/opt/VRTSsfmh/adm/xprtldctrl stop
```
- 2 次のコマンドを使って、ディレクトリ /var/VRTSat\_lhc/ 内のファイルをすべて削除します。  

```
#cd /var  
rm -rf /var/VRTSat_lhc/*
```
- 3 次のコマンドを使って、/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/ ディレクトリにある資格情報をバックアップします。  

```
mv /var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/*.* /tmp/backupcreds/
```
- 4 このディレクトリで、次のコマンドを使って pem ファイルを削除します。
  - rm  
/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/keystore/PubKeyFile.pem
  - rm  
/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/keystore/PrivKeyFile.pem
- 5 次のコマンドを使って、実行しているすべての共有ブローカープロセスを再起動します。  

```
/opt/VRTSat/bin/vxatd
```
- 6 次のコマンドを使って、ローカルホストを認証し、自己署名証明書を作成します。  

```
export EAT_HOME_DIR=/opt/VRTSsfmh  
export EAT_DATA_DIR=/var/opt/VRTSsfmh/sec  
cd $EAT_HOME_DIR/bin  
./vssat authenticate -d localhost
```
- 7 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを開始します。  

```
/opt/VRTSsfmh/adm/xprtldctrl start
```

### Windows で壊れた AT pem ファイルを修復するには

- 1 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを停止します。  

```
net stop xprtld
```
- 2 次のディレクトリのすべてのファイルを削除します。  

```
%ALLUSERSPROFILE%\%Application  
Data\%VERITAS%\Security\%Authentication\%VRTSat_lhc
```
- 3 次のディレクトリの資格情報をバックアップします。

```
AT_PROFILE_DIR¥certstore¥* c:¥temp¥*
```

AT プロファイルディレクトリは次の場所から取得できます。

- 64 ビット Windows の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥VERITAS¥Security¥Authentication¥Credential  
Manager¥Profiles¥SYSTEM¥ ProfileDir
```

- 32 ビット Windows の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥Security¥Authentication¥Credential  
Manager¥Profiles¥SYSTEM¥ProfileDir
```

4 次の pem ファイルを削除します。

- AT\_PROFILE\_DIR¥certstore¥keystore¥PubKeyFile.pem
- AT\_PROFILE\_DIR¥certstore¥keystore¥PrivKeyFile.pem

5 次のコマンドを使って、実行しているすべての共有ブローカープロセスを再起動します。

- sc stop vrtsat
- sc start vrtsat

6 次のコマンドを使って、ローカルホストを認証し、自己署名証明書を作成します。

```
set EAT_HOME_DIR=%PROGRAMFILES%¥VERITAS¥VRTSsfmh  
set EAT_DATA_DIR=%ALLUSERSPROFILE%¥Symantec¥VRTSsfmh¥sec  
cd %EAT_HOME_DIR%¥bin  
vssat authenticate -d localhost
```

7 次のコマンドを使って XPRTLD デーモンを開始します。

```
net start xpirtld
```

## アップグレードされた Veritas Operations Manager 6.1 セットアップで、すべての SF Manager 2.x ホストの状態が正常と表示される (2009372)

SF Manager 2.x 管理対象ホストを備えたアップグレードされた Veritas Operations Manager 6.1 コンソールでホストの状態を表示すると、一部のホストで障害が報告されている場合でも、すべてのホストの状態が正常と表示されます。

回避策:

2.x 管理対象ホストを Veritas Operations Manager 6.1 にアップグレードしてから、2.x の障害をクリーンアップする必要があります。

## 2.x の障害をクリーンアップするには

- 1 次の内容のファイル a.sql を作成します。

```
call HABDBSYNC.SP_ccsf_db_cleanup_21_faults();
```

- 2 以下を実行します。

```
/opt/VRTSsfmh/bin/xdbadm -f ./a.sql -c /var/opt/VRTSsfmcs/conf -o  
/etc/vx/VRTSsfmcs/.odbc.ini -d SFMdb3 -v
```

推奨事項として、管理サーバーと同じバージョンに VRTSsfmh をアップグレードすることです。

## 管理サーバーをアンインストールすると Storage Foundation for Windows ホストから管理対象ホストパッケージが削除される

Veritas Operations Manager 管理サーバーを Storage Foundation for Windows ホストからアンインストールすると、管理対象ホストパッケージがホストから削除されます。したがって、別の管理サーバードメインにはホストを追加できません。

回避策:

Veritas Operations Manager ホスト管理をホストにインストールします。インストール後は、管理サーバードメインにホストを追加できます。

## Veritas Operations Manager が無効なアプリケーションの状態を表示する(2564572)

この問題は、Symantec ApplicationHA がアプリケーションを監視するように設定されている仮想マシンで発生します。ApplicationHA では、仮想マシンの自動リカバリが設定されている場合、設定可能な試行回数後に監視対象のアプリケーションが起動に失敗すると、仮想マシンが復元されます。仮想マシンの自動リカバリがトリガされると、最後の正常な仮想マシンのスナップショットがバックアップから復元されます。これは仮想マシンで実行されるアプリケーションも復元します。ただし、Veritas Operations Manager は復元されたアプリケーションの状態を検出できないので、アプリケーションには障害が発生したと表示され続けます。

回避策:

現在のアプリケーションの状態を表示するには、管理対象ホストを再スキャンします。

## 仮想マシンの移行後、HMC サーバーおよび VMware vCenter Server の手動更新が必要になる(2605533)

この問題は、Veritas Operations Manager の VMware vCenter Server と HMC の設定で発生します。ある ESX サーバーから別の ESX サーバーに VMware の仮想マシンを移行する(サーバーは両方とも同じ VMware vCenter サーバーの下にある)場合、または、ある LPAR サーバーから別の LPAR サーバーに LPAR の仮想マシンを移行する(LPAR サーバーは両方とも同じ HMC の下にある)場合に発生します。

移行後、変更は Veritas Operations Manager コンソールにすぐには反映されません。変更は、スケジュール設定された自動スキャンの実行後に初めて反映されます。

回避策:

変更を確認するには、設定を手動更新する必要があります。

設定を手動更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [仮想化(Virtualization)]をクリックします。
- 3 仮想化サーバーを右クリックして、[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 4 [仮想化設定の更新(Refresh Virtualization Configuration)]ウィザードパネルで、[更新(Refresh)]をクリックします。
- 5 [結果(Result)]パネルで[OK]をクリックします。

---

メモ: Veritas Operations Manager は、特定の VMware イベントに基づく VMware インフラのニアリアルタイム検出も備えています。VMware vCenter Server から VM 移行イベント(VMの移行や DRS VMの移行など)をキャプチャし、Veritas Operations Manager データベースの VMware データをニアリアルタイムで更新できます。VMware インフラのニアリアルタイム検出が有効になっている場合は、手動で VMware vCenter Server を更新する必要はありません。VMware イベントのニアリアルタイム検出の設定について詳しくは、『Veritas Operations Manager 管理サーバーインストール/設定ガイド』を参照してください。

---

## VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後に正常に機能しないことがある(2814844)

管理サーバーが高可用性環境で設定され、制御ホストのアドオンがインストールされている場合、VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングはフェールオーバー後から次の検出サイクルまで正常に機能しないことがあります。

次の検出サイクルまで、次の問題が発生することがあります。

- VMware ESX サーバーに対してパフォーマンスメータリングが開始しない。
- [ライブ(Live)]という期間が選択されているパフォーマンスグラフに、情報が何も表示されない。
- パフォーマンスグラフに、不正なエラーメッセージが表示されることがある。

回避策:

手動で VMware ESX サーバーの検出を更新する必要があります。

手動で VMware ESX サーバーの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [仮想化(Virtualization)]をクリックします。
- 3 仮想化サーバーを右クリックして、[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 4 [仮想化設定の更新(Refresh Virtualization Configuration)]ウィザードパネルで、[更新(Refresh)]をクリックします。
- 5 [結果(Result)]パネルで[OK]をクリックします。

## VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラが使われる場合に仮想ストレージの相関が機能しない(3056561)

Windows、Linux、Solaris プラットフォーム上の VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラが使われる場合には仮想ストレージの相関(vdisk 相関関係)が行われません。

## 共有データストアに関連付けられた RDM ディスクにアクセスできない ESX サーバーが Veritas Operations Manager による RDM ディスク検出の失敗を引き起こすことがある(2736293)

これは Veritas Operations Manager を使う VMware 仮想化検出に適用されます。この問題は、(仮想マシンにストレージを提供する)RDM ディスクが、複数の ESX サーバー間で共有されるデータストアに関連付けられ、いくつかの ESX サーバーに RDM ディスクへのアクセス権がない場合に発生します。このような場合には、RDM ディスクが Veritas Operations Manager によって検出されないことがあります。

回避策:

すべての ESX サーバーに RDM ディスクへのアクセス権があることを確認します。

## Veritas Operations Manager 高可用性 (HA) 環境で管理対象ホストの状態が誤って報告される (2780631)

この問題は Veritas Operations Manager 管理サーバーが高可用性 (HA) 環境に設定された場合に起きます。この問題は UNIX と Windows プラットフォームに適用されます。

管理対象ホストに障害があるときに、管理対象ホストの状態は Veritas Operations Manager データベースで停止と報告されます。管理対象ホストが停止して管理サーバーが 1 つのノードから別のノードにフェールオーバーするとします。たとえば、MS1 から MS2 にフェールオーバーするとします。

管理対象ホストが管理サーバー HA 移行中に再起動した場合に、MS2 ノードは管理対象ホストの状態を起動として記録します。ただし、MS1 によって報告される管理対象ホストの障害と停止状態は (ニアリアルタイムデータが共有されないために) Veritas Operations Manager データベースからクリアされません。

回避策:

アクティブな管理サーバーノードからの再スキャン操作を実行して、XPRTLD の起動や停止と関連している障害についての正しい状態が Veritas Operations Manager コンソールで更新されるようにします。

## Windows ホストに対して表示される OS のバージョン名が、ロケールが英語のシステムと英語以外のシステムで異なる (3271960)

Windows ホストに対するオペレーティングシステム名とバージョンの表示形式が、ロケールが英語のシステムと英語以外のシステムで異なる場合があります。

## 実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストでのみ正確である (3077899)

管理サーバーコンソールで、[最近のタスク (Recent Tasks)] ペインの実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストに対してのみ表示されます。

## コンソール内でページ間を移動するときに Internet Explorer がセキュリティ警告を表示することがある (2999524)

管理サーバーコンソール内でページを移動すると、Internet Explorer がセキュリティ警告を表示することがあります。

「安全に配信された Web ページコンテンツのみを表示しますか?」

回避策:

セキュリティメッセージで、[いいえ] をクリックするとページに進めます。

または、Internet Explorer のセキュリティ警告メッセージを無効にできます。

**Internet Explorer のセキュリティ警告メッセージを無効にするには**

- 1 [ツール]、[インターネットオプション]、[セキュリティ]の順に選択します。
- 2 [セキュリティ]タブで、[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
- 3 [その他]セクションで[混在したコンテンツを表示する]の下にある[有効にする]を選択します。

## バージョン5.xより前の管理対象ホストがストレージプロビジョンとボリューム移行に対してリストされない

Storage Provisioning and Enclosure Migration Add-onを使う場合に、ストレージプロビジョンとボリューム移行は Veritas Operations Manager バージョン 5.x 以降を実行する管理対象ホスト上でのみサポートされます。以前のバージョンがあるホストはストレージプロビジョンとボリューム移行操作に対してリストされません。

## Windows 管理サーバーのデータベースがデフォルト以外の場所にインストールされている場合に VMware 仮想マシンの電源状態のニアリアルタイム更新が機能しない(3530272)

この問題は、Veritas Operations Manager 管理サーバーが Windows プラットフォームにインストールされている場合に発生します。管理サーバーのデータベースがデフォルト以外の場所にインストールされている場合、仮想マシンの電源状態はニアリアルタイムで更新されません。

正しい仮想マシンの状態は、Veritas Operations Manager の定期的な VMware ファミリー検出によって検出され、更新されます。

## Hyper-V Server 上の同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが Veritas Operations Manager で検出されない(3509138)

Veritas Operations Manager では、同じ BIOS GUID を持つ複数の Hyper-V 仮想マシンが検出されません。Hyper-V Server (親パーティション) では、同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが共存することに注意してください。ただし、Veritas Operations Manager では、BIOS GUID がこのような仮想マシンを検出するための一意の識別子として使われるため、1 つの仮想マシンしか検出されません。

この問題に対する回避策はありません。

## クラスタのディスク情報にホストの正しいデータが表示されない(3532746)

管理対象ホストを 6.1 にアップグレードし、次の条件に当てはまる場合、[サーバー (Server)] パースペクティブでクラスタを選択したときに [ディスク (Disks)] タブにディスクが正しく表示されないことがあります。

- ホストが CVM クラスタの一部である。
- ディスクがどのディスクグループまたはボリュームグループにも属していない。
- ディスクが VxVM ではなく .LVM や ZFS などのネイティブボリュームマネージャの管理下にある。

これらのディスクは、それぞれのホストの[ディスク(Disks)]タブには正しく表示されます。

回避策:

これらのホストの Veritas Operations Manager 管理対象パッケージを 6.1 にアップグレードした後、このようなディスクを共有している管理対象ホストすべてをいったん管理サーバードメインから削除し、その後で管理サーバードメインに再度追加します。

## SAN ディスクで MPxIO を有効にした後に LDOM ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが行われぬ(3370824)

管理サーバークンソールの[仮想化(Virtualization)]パースペクティブには、ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが表示されます。ただし、SAN ディスクで Solaris 多重化 I/O (MPxIO) を有効にした後は、LDOM ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが行われません。この問題は[仮想化(Virtualization)]パースペクティブでのみ発生することに注意してください。[サーバ( Server)]パースペクティブでは、ディスクからボリュームへの関連付けまたはディスクグループの関連付けは正常に行われます。

[仮想化(Virtualization)]パースペクティブに対する利用可能な回避策はありません。[システム(System)]パースペクティブ権限がある場合は、ディスクの関連付けが表示されます。

## 管理対象ホストの問題

次の問題はホスト管理に関連しています。

### IBM XIV ストレージアレイから割り当てられた LUN がある管理対象ホストのアップグレード(3.x から 6.1 へ)に関連する問題(2367519)

この問題は、IBM XIV エンクロージャが接続されているすべての管理対象ホストに関連しています。管理対象ホストをバージョン 3.x から 6.1 にアップグレードするときに、Veritas Operations Manager コンソールでは同じエンクロージャに 2 つのエントリが表示されます。最初のエントリは、どのオブジェクトにも関連付けられていない孤立したオブジェクトです。他のエントリにはディスク、LUN、アレイポート、イニシエータの関連付けが設定されていて、正しくレポートされます。

これは共有オブジェクトの削除情報を保護するためのものです。

回避策:



管理対象ホストを Veritas Operations Manager 6.1 にアップグレードすると、ストアドプロシージャの予定した実行によって、孤立したオブジェクトの不一致が自動的に解消されず。このストアドプロシージャは、毎朝 3:00 に管理サーバー上で実行されます。

## AIX 管理対象ホストでストレージのプロビジョニング操作を実行した後に Quick I/O のキャッシュの値が有効にならない(2131183)

VxFS ファイルシステムベースのストレージプロビジョニングテンプレートを使い、テンプレートの Quick I/O のキャッシュ (CQIQ) の値を「はい」に設定して AIX 管理対象ホストでストレージをプロビジョニングすると、ストレージのプロビジョニング操作は正常に完了します。ただし、キャッシュ I/O は適切に更新されません。vxtunefs 出力の「qio\_cache\_enable」の値は「0」のままです。

回避策:

AIX プラットフォームでは、VxFS の調整パラメータが正しく設定されていません。管理対象ノードから vxtunefs を使うことができます。

## Symantec Storage Foundation for Windows 5.1 SP1 を実行するホスト上のシン LUN がシンとして検出されない(2513466)

Veritas Operations Manager で、Symantec Storage Foundation for Windows バージョン 5.1 SP1 を実行するホスト上のシン LUN がシンとして検出されません。

回避策:

次の場所から Symantec Storage Foundation for Windows バージョン 5.1 SP1 の Hotfix をダウンロードし、ホストで実行してください。

<https://sort.symantec.com/patch/detail/4697>

インストールが成功したらホストを再起動します。

## セキュアクラスタ間でリモート切り替え操作が失敗する(2530605)

セキュアモードで設定されているクラスタ間でグローバルサービスグループを切り替えようとすると、操作は失敗して次のエラーメッセージが表示されます。

```
VCS WARNING V-16-1-50824
```

```
Command (hagr -switch servicegroupname  
targetssystemnametargetclustername) failed
```

```
At least Group Operator  
privilege required on remote cluster targetclustername
```

回避策:

Veritas Operations Manager は、Veritas Storage Foundation Messaging Service を使用して Veritas Cluster Server コマンドを実行します。デフォルトで、このサービスはローカルシステムアカウントのコンテキストで実行されます。このサービスを、ドメイン管理者アカウントのコンテキストで実行してから切り替え操作を行うように設定します。クラスター内の管理対象ホストそれぞれについて、サービスアカウントを変更します。

サービスアカウントのコンテキストを変更するには

- 1 Windows Services MMC スナップインを開きます。
- 2 [Veritas Storage Foundation Messaging Service] を右クリックし、次に[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- 3 [ログオン (Log On)] タブをクリックし、以下を行います。
  - [アカウント (This account)] をクリックしてから[参照 (Browse)] をクリックし、[ユーザーの選択 (Select User)] ダイアログボックスでドメイン管理者権限を持つユーザーアカウントを指定します。
  - [OK] をクリックします。
- 4 [パスワード (Password)] および[パスワードの確認 (Confirm password)] フィールドにユーザーアカウントのパスワードを入力します。[OK] をクリックします。
- 5 サービスグループの操作を続行します。

## HP-UX 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する(2601265)

Veritas Operations Manager で、エージェントを通して HP-UX 管理対象ホストを追加しようとする、操作が失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

管理対象ホストから CS ホストには到達できません。(CS host is not reachable from managed host.)

回避策:

追加する管理対象ホスト上で XPRTLD プロセスを再起動してから、ホストを追加します。

## vCenter サーバー 5.0 で管理される VMware ESX サーバーのバージョン 4.1 で、一部のパフォーマンスグラフを利用できない(2800239)

Veritas Operations Manager では、vCenter サーバーのバージョン 5.0 で検出される VMware ESX サーバーのバージョン 4.1 で、[使用可能なメモリ (Available Memory)] と[使用済みスワップ (Used Swap)] のパフォーマンスグラフが利用できません。

## Windowsプラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマンスグラフを表示できない(3054870)

Windows プラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマンスグラフが表示されない場合は、管理サーバーコンソールで次の操作をします。

- HKLM¥System¥CurrentControlSet¥Services¥vxio¥Performance の場所にある DisablePerformanceCounters レジストリキーの値がゼロであることを確認する

- XPRTLD サービスを再起動する

XPRTLD サービスを再起動するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

- net stop xpirtld
- net start xpirtld

## ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加できない(2816487)

ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加できません。

回避策:

ホスト名を使って、管理サーバーにホストを追加します。

## Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合に、不正な統計が DMP によって返される(2796418)

管理対象ホスト上の Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合、正しくないパフォーマンス統計が DMP (Dynamic Multipathing) パスによって返されます。イニシエータ、マルチパス用パス、エンクロージャの [書き込み/読み取りバイト数 (Bytes Read/Written)] パフォーマンスグラフに表示される I/O 回数は、実際の I/O 回数より大きな値になります。

## クラスタ化された設定のスレーブノードからトリガされたときにディスクグループの作成操作が失敗する(3196104)

クラスタ化された設定では、ディスクグループの作成操作がスレーブノードからトリガされたときやディスクの命名規則がマスターとスレーブで異なる場合に失敗します。

## HP-UX 管理対象ホストで、パスイニシエータやアレイポート情報が一部のディスクに対して表示されない(3073128)

管理サーバーコンソールで、HP-UX 管理対象ホストのディスク情報を表示するときに、パスイニシエータやアレイポート情報が一部のディスクに対して表示されません。影響が

あるディスクは 512 より大きいコントローラ番号または 15 より大きいターゲット番号のディスクです。

## 違反したライセンス配備ポリシーが正しく表示されない(3342986)

リスクや障害があるライセンス配備ポリシーを表示するルールを作成し、そのルールが違反しているポリシーのためにトリガされた場合に、その障害は[管理サーバー (Management Server)] パースペクティブで、[障害とリスク (Faults and Risks)] の下にある、[障害 (Faults)] タブに表示されません。

[SFHA ライセンス (SFHA Licensing)] の [ライセンス配備の概略 (License deployment summary)] テーブルに表示される違反しているポリシー数が正しくありません。

## 完全修飾ホスト名が vfstab ファイルで使われているにもかかわらずファイルシステムのマウントに使われていない場合に、Solaris の NFS を検出できない(2747735)

Solaris の NFS (Network File System) が完全修飾ホスト名 (FQHN) を指定せずにマウントされているにもかかわらず /etc/vfstab ファイルに FQHN が含まれている場合、この NFS ファイルシステムは Veritas Operations Manager 6.1 で検出できません。

## UNIX ホストの場合に [帯域幅 (Bandwidth)] タブに正しくないデータが表示される(3484788)

UNIX ホストの場合、[帯域幅 (Bandwidth)] タブの [伝送されたデータ (Data Transmitted)] 列に表示されるレプリケートされたボリュームグループの帯域幅情報が正しくありません。これはホストが複数の管理サーバーに報告している場合にのみ発生します。

## Windows ホストで制御ホストアドオンのアップグレード処理が完了したと表示されるが、vCenter を追加または削除できない(3517058)

この問題は、アップグレード処理中にホストで vmwarecollector プロセスが実行されていることが原因で発生します。

回避策:

アップグレード処理を完了するには、次の手順を実行します。

- 1 ホストでパフォーマンスメータリングを無効にします(ホストを右クリックし、[プロパティ (Properties)]を選択して[パフォーマンス(Performance)]タブを選択します)。
- 2 アップグレードを開始する前に、vmwarecollector プロセスが完了していることを確認します。

---

**メモ:**プロセスが実行中の場合は、完了するまで待ちます。プロセスを終了しないでください。vCenter Server から収集される統計データが壊れる可能性があります。

---

- 3 ホストの制御ホストアドオンをアップグレードします。
- 4 ホストでパフォーマンスメータリングを有効にします(ホストを右クリックし、[プロパティ (Properties)]を選択して[パフォーマンス(Performance)]タブを選択します)。

## Solaris 管理対象ホストでメモリ使用状況のライブ統計に表示される空きメモリが正しくない(3518586)

Solaris 管理対象ホストでユーザーがメモリ使用状況のライブ統計を表示したときに、ライブ統計に表示される空きメモリが `vmstat` コマンドによって報告されるデータと一致しません。

## エージェントレス検出の問題

次の問題はホストのエージェントレス検出に関連しています。

### IPv6 アドレスを使ったホストのエージェントレス設定が失敗する(2414252)

IPv6 アドレスを使ったエージェントレスホストの設定が機能しません。エージェントレス検出を使って設定するホストのホスト名または IPv4 アドレスを指定する必要があります。

### 英語以外のロケールを実行する Windows ホストのエージェントレス設定が失敗する(2484139)

エージェントレス検出を使って、英語以外のロケールを実行する Windows ホストを設定すると、「リモートホスト上の空き領域を特定できませんでした (Failed to determine free space on the remote host)」というエラーメッセージで設定が失敗します。エージェントレス検出を使って、英語以外のロケールを実行する Windows ホストを設定することはできません。これらのホストはエージェントを使って設定する必要があります。

## 2 バイト文字セットが含まれるユーザー名を使ったエージェントレスホストの設定が失敗する(2427619)

エージェントレス検出を使って、全角文字を含むユーザー名を持つホストを設定すると、設定が失敗します。これは通常、英語以外のロケールのユーザー名で発生します。

## ボリュームグループを共有ディスク上に作成した場合、ボリュームグループと論理ボリュームの情報が一致しない(2567056)

Logical Volume Manager のボリュームグループがディスク上に作成されると、複数のホストで共有され、ボリュームグループと論理ボリュームにはすべてのホストからアクセス可能になります。その結果、最後に設定または検出されたホストはボリュームグループおよび論理ボリュームのプロパティを上書きします。

## Storage Insight Add-onの問題

次の問題は Storage Insight Add-onに関連しています。

### IBM SVC アレイの最初の検出の後に、パテのキャッシュの手動更新が必要になることがある(3114164)

この問題は、パスワードや PPK キーファイルを使って IBM SVC アレイを正常に設定し、アレイ検出が最初の検出サイクルの後で起きないときに発生します。この問題を解決するには、パテのキャッシュの手動更新を下記に記されているように実行する必要があります。

回避策:

**Linux または Solaris プラットフォームのパテのキャッシュを更新するには**

- 1 検出ホストにログオンします。
- 2 `/root/.putty/sshhostkeys` に移動して `sshhostkeys` を見つけます。
- 3 アレイホストエントリを削除します。
- 4 Storage Insight Add-onを使う IBM SVC アレイを再設定します。

### Windows プラットフォームのパテのキャッシュを更新するには

- 1 Windows のレジストリを開きます。
- 2 HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥SimonTatham¥PuTTY¥SshHostKeys に移動します。

IBM SVC アレイの設定に使われているユーザークレデンシヤルと同じユーザークレデンシヤルを使うことを確認します。

- 3 IBM SVC アレイの IP アドレスを含む行を削除します。

管理者が新しい SSH キーペアを該当のユーザーに設定していた場合に PPK キーでの不一致が起こることがあります。PPK ファイル認証を使っている場合には、新しい PPK ファイルを管理者から入手してアレイの設定に使う必要があります。

## ローカルにレプリケートされた EMC Symmetrix LUN で、最後の同期時間が SYMCLI バージョン 7.4 以降に対してのみ利用可能である (3249430)

これは Storage Insight Add-onを使った EMC Symmetrix エンクロージャの詳細検出に適用されます。ローカルにレプリケートされた LUN で、SYMCLI バージョン 7.3.x 以前が使われている場合に、最後の同期時間が Veritas Operations Manager 管理サーバーコンソールで利用できません。

回避策:

この情報を取得するには SYMCLI バージョン 7.4 以降を使う必要があります。

## SYMCLI のバージョンが Storage Insight アドオン検出ホストでアップグレードされたときに Symmetrix エンクロージャの手動検出が必要になる (3289628)

これは Storage Insight Add-onを使った EMC Symmetrix エンクロージャの詳細検出に適用されます。SYMCLI のバージョンが検出ホストでアップグレードされた場合に、SYMCLI のバージョンが Symmetrix の機能(たとえば FAST)をサポートしている場合には、Symmetrix エンクロージャの設定を Veritas Operations Manager コンソールから手動で更新してそれらの機能を検出する必要があります。

## セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定できない (2221574)

セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定することはできません。

回避策:

セキュリティファイルを使って EMC CLARiiON を設定するには、Windows 制御ホストの代わりに UNIX 制御ホストを選択します。

## Storage Insight Add-onのバージョン 6.1 へのアップグレード後、NetApp エンクロージャが検出されない

Storage Insight Add-onバージョン 4. x を使って設定した NetApp エンクロージャが、アドオンをバージョン 6.1 にアップグレードした後に検出されません。

回避策:

設定を編集し、NetApp エンクロージャの NAS の検出を有効にします。

設定を編集し、NetApp エンクロージャの NAS の検出を有効にするには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [デバイス(Device)]をクリックします。
- 3 [エンクロージャ(Enclosures)]を展開して、NetApp を見つけます。
- 4 [NetApp の設定(NetApp Configurations)]リストでエンクロージャを右クリックし、[設定の編集(Edit Configuration)]を選択します。
- 5 [設定の編集(Edit Configuration)]パネルで、[NAS 検出の有効化(Enable NAS discovery)]チェックボックスにチェックマークを付けます。

## エンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後に正常に機能しないことがある(2814844)

管理サーバーが高可用性環境で設定され、Storage Insight Add-onを通じてエンクロージャが検出される場合、そのエンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後から次の検出サイクルまで正常に機能しないことがあります。

次の検出サイクルまで、次の問題が発生することがあります。

- エンクロージャに対してパフォーマンスメータリングが開始しない。
- [ライブ(Live)]という期間が選択されているパフォーマンスグラフに、情報が何も表示されない。
- パフォーマンスグラフに、不正なエラーメッセージが表示されることがある。

回避策:

手動でエンクロージャの検出を更新する必要があります。



手動でエンクロージャの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [デバイス(Device)]をクリックします。
- 3 [エンクロージャの構成(Enclosure Configuration)]タブでエンクロージャを見つけます。
- 4 エンクロージャを右クリックして[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 5 [設定の更新(Refresh Configuration)]パネルで[はい(Yes)]をクリックします。

## EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージグループに関する情報が定期的に検出されない(2842124)

Storage Insight Add-onを使って EMC Symmetrix VMAX エンクロージャが設定されると、異なる FAST ティア間での FAST 管理対象ストレージグループのストレージ分布情報が、定期的な検出サイクルの一部として検出されないことがあります。

検出時間を最適化するために、定期的な検出は Symmetrix 監査ログを調べて特定の機能クラスや処理コードのみに変更が起きたかを判断します。

回避策:

Veritas Operations Manager コンソールからエンクロージャを更新して、FAST 管理対象ストレージグループの更新情報を表示します。

手動でエンクロージャの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [デバイス(Device)]をクリックします。
- 3 [エンクロージャの構成(Enclosure Configuration)]タブでエンクロージャを見つけます。
- 4 エンクロージャを右クリックして[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 5 [設定の更新(Refresh Configuration)]パネルで[はい(Yes)]をクリックします。

## Windows ホストで HP EVA エンクロージャを設定するときに、パスワードファイルオプションが機能しない(2757601)

この問題は、Storage Insight Add-on 6.1 を使った HP EVA エンクロージャのアレイの詳細検出に適用されます。SSSU (Storage Scripting System Utility) CLI のユーティリ

ティバージョンが 9.4 以前の Windows ホストで、HP EVA エンクロージャの設定中にパスワードファイルオプションが機能しません。

回避策:

SSSU CLI のユーティリティバージョン 9.4 以降を Windows ホストにインストールします。次に、HP EVA エンクロージャを設定すれば、パスワードファイルオプションが使えます。

## 読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオペレータロールを持つユーザーに対して、EMC Celerra エンクロージャの詳細が検出されない

この問題は、Storage Insight Add-on 6.1 を使った EMC Celerra エンクロージャのアレイの詳細検出に適用されます。読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオペレータロールを持つユーザーがエンクロージャを設定しようとすると、アレイ検出時にエンクロージャの詳細が取得されません。

回避策:

nasadmin ロールをユーザーに割り当てます。

## 要求元不明の VPLEX エクステントの場合に、ストレージ計算の一貫性欠如が発生する (2844028)

この問題は、Storage Insight Add-on を使って設定される、EMC VPLEX エンクロージャで発生します。要求元不明の VPLEX エクステントがある場合、Waterfall グラフによって報告される物理的に未設定のデータと、VPLEX ノードの [ストレージボリューム (Storage Volumes)] タブを使用して報告される使用容量との間で不一致が発生する可能性があります。VPLEX デバイスでエクステントが使われている場合、不一致はありません。

## FAST 管理対象ストレージグループの一部のデバイスにティア情報が表示されない (2795204)

EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージグループでは、そのストレージグループのポリシーに関連付けられているティアの一部ではないデバイスに対して、ティア情報が表示されません。

ストレージグループを、[ストレージ (Storage)] パースペクティブで Symmetrix VMAX エンクロージャの [FAST] タブから選択した場合に、[FAST 管理対象デバイス (FAST Managed Devices)] ビューで、[ティア名 (Tier Name)] が [OutOfPolicy] として表示され、[ティアタイプ (Tier Type)]、[保護レベル (Protection Level)] が [不明 (Unknown)] として表示されます。

## EMC Symmetrix アレイポートとアダプタのパフォーマンスグラフが表示されないことがある(3247859)

SYMCLI は EMC Symmetrix アレイポートとアダプタの特定時点の統計サンプルを報告するため、統計収集時にアレイポートまたはアダプタが I/O を提供していない場合は、これらのオブジェクトのパフォーマンスグラフは表示されないことがあります。メッセージ[パフォーマンス統計が選択した期間に対して利用できません (Performance statistics are not available for the selected duration.)]が表示されます。

## IBM System Storage DS エンクロージャの検出が、Veritas Operations Manager の HiCommand Server 7 でサポートされていない(2708346)

日立 HiCommand サーバーは、さまざまなアレイ製造元や、IBM System Storage DS アレイなどのモデルの管理と検出をサポートします。ただし、Veritas Operations Manager 6.1 では、HiCommand Server 7 を使って IBM System Storage DS エンクロージャを検出できません。

# Virtual Business Service の問題

Virtual Business Service の問題は次のとおりです

## Veritas Operations Manager が、VBS 開始操作中にクラスタノードが管理サーバーによって管理されているかどうか検証しない(2566050)

VBS (Virtual Business Service) の開始操作を実行するときに、Veritas Operations Manager が、管理サーバーがクラスタノードを管理しているかどうか検証しません。Veritas Operations Manager は、そのサービスグループが利用可能なシステムで -any オプションを使ってサービスグループをオンラインにします。

回避策:

機能が消失したわけではありませんが、管理サーバードメインにすべてのクラスタノードを追加することを推奨します。

## Virtual Business Service 起動操作によって、サービスグループのリソース重要度が確認されない(2169223)

起動操作はサービスグループに重要度の高くないリソースがあるかどうかを確認しません。したがって、この操作は、これらのリソースをオンラインにする間に発生する障害を検出しません。また、VBS の起動を試みるときにそのようなリソースですでに障害が発生しているかどうかを検出しません。このような障害がある場合、VBS の操作は完了しません。操作を中止することを選択できます。予防策として、サービスグループのすべてのリソースを重要として設定できます。

## Virtual Business Service の起動および停止操作を行っても複数の仮想マシンをオンラインやオフラインにすることができない(2177421)

この問題は、Virtual Business Service (VBS) の仮想マシンで設定されるハイブリッドサービスグループや並列サービスグループで発生します。VBS 起動および停止操作の場合、VBS の起動と停止機能では複数の仮想マシンの起動や停止を行いません。すべてのシステムのサービスグループをオンラインまたはオフラインにできます。ただし、すべての仮想マシンを起動または停止することはできません。現在、VBS の起動と停止機能では複数の仮想マシンを起動または停止することは意図していません。

## Storage Insight SDK Add-onの問題

次の問題は Storage Insight SDK Add-onに関連しています。

### Storage Insight プラグインの編集操作とテスト操作が、64 ビット Windows ホストの Internet Explorer を使う環境でサポートされない(2826079)

この問題は、Storage Insight SDK アドオンがインストールされている 64 ビット Windows ホストで発生します。Internet Explorer を使うと、Storage Insight プラグインファイル (.sfa) をアップロードできません。このため、[編集(Edit)] 操作と[テスト(Test)] 操作は Internet Explorer で実行できません。

回避策:

Storage Insight プラグインの編集とテストには、他の Web ブラウザを使う必要があります。たとえば、Mozilla Firefox や Google Chrome などを使います。

### Internet Explorer Web ブラウザで Storage Insight プラグインのアップロード操作が失敗することがある(3485662)

Internet Explorer Web ブラウザ(バージョン 8、10、11)を使って Storage Insight プラグインのファイル(.sfa)をアップロードしようとする、操作が失敗する場合があります。

回避策:

他の Web ブラウザを使って Storage Insight プラグインをアップロードします。たとえば、Mozilla Firefox や Google Chrome などを使います。

## Fabric Insight Add-onの問題

以下の問題は、Fabric Insight Add-onに関連しています。

## 高可用性モードで設定された Veritas Operations Manager 管理サーバーが検出ホストとして使われている場合に SAN スイッチの検出が失敗する(3513295)

高可用性環境で設定された Veritas Operations Manager 管理サーバーがスイッチ設定の検出ホストとして使われている場合、スイッチの検出が失敗します。管理サーバーコンソールを使ってスイッチ検出を設定する場合、設定が完了してもスイッチの詳細は検出されません。

回避策:

管理サーバー以外の管理対象ホストを使い、そのホストに Fabric Insight Add-onをインストールし、それをスイッチ検出の検出ホストとして使います。

## Symantec HA Plug-in for vSphere Web Clientの問題

以下の問題はSymantec HA Plug-in for vSphere Web Clientに関連しています。

### vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグインを VMware vSphere 5.1 と一緒に使っているときに高可用性 (HA) ダッシュボードの状態データとシステムデータが突然消える

この問題は vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグイン 6.1 に該当します。VMware vSphere バージョン 5.1 をプラグインと一緒に使っている場合、[状態 (Status)] 列と[システム (System)] 列のエントリが Symantec 高可用性ダッシュボードから突然消えます。

この問題を解決するには、次のいずれかのオプションを使います。

- Web ブラウザのキャッシュを消去してから VMware vSphere Web Client を再起動します。
- VMware vSphere Web Client の他のタブ ([ストレージレポート (Storage Reports)] など) クリックし、Web ブラウザを更新して、[Symantec High Availability (Symantec High Availability)] タブに移動します。

---

**メモ:** この問題は VMware vSphere バージョン 5.1 でのみ発生します。VMware vSphere バージョン 5.5 では、高可用性ダッシュボードで[状態 (Status)] 列と[システム (System)] 列のデータを使用できます。

---

## アプリケーションの設定後に通知シンクリソース VCSAppMonNSRes が障害状態のままになる (3491987)

新規インストールの場合は、スタンドアロンの HA Console が使用できないため、通知シンクリソース VCSAppMonNSRes は障害状態のままになります。ただし、ユーザーは VCSAppMonNSRes リソースをオフラインにすることができます。

アップグレードの場合は、ユーザーが既存の HA Console インストールを vSphere Desktop Client と一緒に保持することを事前に決定していれば、通知シンクリソース VCSAppMonNSRes はオンライン状態のままになります。

この問題に対する回避策はありません。

## Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグインを登録解除した後も [高可用性 (High Availability)] タブが表示される (3498886)

Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグインを登録解除した後も、vSphere Web Client に [高可用性 (High Availability)] タブが表示されます。

回避策:

単一の vCenter Server の登録解除の場合:

単一の vCenter Server が設定されていて、vSphere プラグインを登録解除したときには、キャッシュされたプラグインデータを次の場所から削除する必要があります。

```
C:\ProgramData\VMware\ vSphere Web  
Client\vc-packages\vsphere-client-serenity
```

データを削除した後、VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。

複数の vCenter Server の場合は、次の手順を実行します。

- 複数の vCenter Server から vSphere プラグインを登録解除した場合は、VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。
- すべての vCenter Server から vSphere プラグインを登録解除した場合は、まずキャッシュデータを削除し、次に VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。

これらの手順を正しく実行すると、vSphere Web Client に [高可用性 (High Availability)] タブが表示されなくなります。

## ApplicationHA ホストでの Veritas Operations Manager 6.1 管理対象ホストのインストールまたはアップグレード後に、Symantec ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが失敗する

Veritas Operations Manager 6.1 管理対象ホストを Symantec ApplicationHA 5.1 Service Pack 2 または Symantec ApplicationHA 6.0 のいずれかがインストールされているホストでインストールまたはアップグレードすると、ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが機能しなくなります。

この問題に対する回避策はありません。

## Symantec High Availability ダッシュボードが表示されないことがある (3494263)

VMware vSphere Web Client のイベントリツリーの ESX クラスタまたはデータセンターに移動すると、Symantec High Availability ダッシュボードが表示されないことがあります。この問題は、一意のユニバーサル識別子 (UUID) のない仮想マシンが vSphere Web Client 用の Symantec HA プラグインを登録した vCenter サーバーと関連付けられている場合にのみ発生します。

回避策:

セットアップで UUID がいないすべての仮想マシンを識別し、UUID を各仮想マシンに割り当て、ダッシュボードを更新します。

## その他の問題

このセクションでは Veritas Operations Manager の残りの既知の問題セクションに分類できない追加の問題を示します。

## 仮想マシンの一部になっているディスクのエントリが重複する (2481982)

Storage Foundation を実行する仮想マシンに非 RDM ディスクがあり、ディスクに対してエンクロージャに基づく命名規則が有効になっている場合、Veritas Operations Manager では [ホスト (Hosts)] > [ディスク (Disks)] タブにディスクが 2 回表示されます。この問題はディスクが VxVM とエンクロージャのオペレーティングシステムによって検出されるために発生します。

回避策:

ディスクの命名規則を `c##t##d##` に変更します。

## Firefox ブラウザを使ってロシア語のユーザー名で管理サーバーを設定できない

Firefox ブラウザを使うと、ユーザー名がロシア語の場合に管理サーバーを設定できません。ユーザー名がロシア語である場合にのみ、基本的な認証機構が Firefox で正しく動作しません。

## ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas Operations Manager 6.1 の共存がサポートされない(2739241)

ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas Operations Manager 6.1 には互換性の問題があり、この 2 つの製品は単一のサーバーで共存できません。

回避策:

ApplicationHA コンソールを 6.0.1 にアップグレードします。

## RVGPrimary リソースのリソース属性が検出されない

6.1 よりも低いバージョンの VCS がある UNIX クラスタでは、RVGPrimary リソースの属性が Veritas Operations Manager を通じて検出されません。

## ディスクが 2 TB より大きい場合に正しくないサイズが検出される(3330363)

ディスクのサイズが 2 TB より大きい場合、HBAAPP は Solaris x86 または HP-IA ホスト上のディスクの容量を正しく検出できません。このようなディスクの容量は 2 TB として検出されます。

## VMware VirtualCenter サーバーおよび ESX サーバーの検出で大文字/小文字が区別されない(2567318)

VMware VirtualCenter サーバーまたは ESX サーバーの検出時に、Veritas Operations Manager は名前に大文字/小文字の違いしかない 2 つ以上の仮想ディスク同士を区別できません。Veritas Operations Manager では、このようなディスクのうち 1 つだけが検出されます。

この問題は、ユーザーが Veritas Operations Manager 6.0 環境で VMware VirtualCenter サーバーまたは ESX サーバーを設定していて、Veritas Operations Manager 6.1 にアップグレードする場合に発生します。



## MSSQL HA 設定の場合に[インスタンス(instance)]タブにオフラインインスタンスが表示されない(3516063)

MSSQL HA 設定の場合、[サーバー(Server)]パースペクティブの MSSQL データベースの[インスタンス(instance)]タブにオフラインインスタンスが表示されません。

## リソースとして設定された仮想マシンが 1 台しか検出されない(3488469)

サービスグループにリソースとして設定された仮想マシンが複数含まれている場合、[VSystem(VSystems)]タブに仮想マシンが 1 台しか表示されません。

## ディスクの接続性ポリシー検査でポリシー検査違反が生成されない(3530346)

Veritas Operations Manager 6.1 では、ディスクの接続性ポリシー検査で違反が正しく報告されない場合があります。

# マニュアルの補足事項と正誤表

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Operations Manager 6.1 オフラインヘルプの正誤表](#)

## Veritas Operations Manager 6.1 オフラインヘルプの正誤表

このセクションは Veritas Operations Manager 6.1 のオフラインヘルプの正誤表を挙げています。

### 管理サーバーコンソールの使用

この章の次のトピックに掲載されている画像では、Veritas Operations Manager のバージョンを 6.1 と読み取ってください。

- 管理サーバーコンソールのホームページについて
- パースペクティブビューの要素について
- 概略情報の表示について
- ソリューションの表示について
- レポートの表示について

# サポート情報

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Web 上での Veritas Operations Manager 情報](#)
- サポート情報
- [製品マニュアルの使用](#)

## Web 上での Veritas Operations Manager 情報

Veritas Operations Manager の総合的な最新情報については、Symantec の Web サイトを参照してください。

<http://go.symantec.com/vom>

## サポート情報

製品の使用中に問題が発生した場合は、製品マニュアルやオンラインヘルプを参照します。必要であれば、Symantec に報告してください。

技術的な支援が必要な場合は、次の Web サイトを参照してください。

[www.symantec.com/enterprise/support/index.jsp](http://www.symantec.com/enterprise/support/index.jsp)

このサイトでは、TechNote、製品アラート、ソフトウェアダウンロード、ハードウェアとソフトウェアの互換性リスト、お客様への電子メール通知サービスなどのリソースにアクセスできます。製品マニュアルの現在および過去のリリースなどの追加製品情報にアクセスするには、ナレッジベース検索機能を使います。

## 製品マニュアルの使用

[表 B-1](#) は、Veritas Operations Manager ガイドを一覧表示し、[表 B-2](#) は、Veritas Operations Manager マニュアルを一覧表示します。

表 B-1 Veritas Operations Manager ガイドの名前

マニュアルのタイトル	説明
Veritas Operations Manager のハードウェアおよびソフトウェアの互換性リスト (HSCL)	ハードウェアおよびソフトウェア互換性のリストが記載されています。
Veritas Operations Manager 管理サーバーリリースノート	新しい機能、解決された問題、既知の問題、制限などのリリース情報が記載されています。
Veritas Operations Manager 管理サーバーインストール/設定ガイド Veritas Operations Manager 管理サーバーユーザーガイド Veritas Operations Manager 管理サーバーアドオンユーザーガイド	Veritas Operations Manager についての情報が記載されています。
Veritas Operations Manager 管理サーバーのよく寄せられる質問	Veritas Operations Manager についてのよく寄せられる質問のリストが掲載されています。
Veritas Operations Manager Management Server Third-Party License Agreements	Veritas Operations Manager で使用されるサードパーティのソフトウェアについての情報が記載されています。

表 B-2 Veritas Operations Manager マニュアルの URL

URL	説明
<a href="https://sort.symantec.com/documents">https://sort.symantec.com/documents</a>	製品マニュアルの最新バージョン。
<a href="http://www.symantec.com/connect/videos/vom-videos">http://www.symantec.com/connect/videos/vom-videos</a>	ハウツービデオのリスト。
<a href="http://www.symantec.com/docs/TECH218376">http://www.symantec.com/docs/TECH218376</a>	このリリースに関連した最新のニュース。

Veritas Operations Manager ヘルプのコンテンツは、オフラインとオンラインの 2 つのモードで提供されます。

オンラインモードは Web 上でホストとされ、製品ヘルプを起動したときにアクセスします。オフラインモードは、Veritas Operations Manager のアドオンとしてパッケージ化されているため、Web アクセスが利用できないときに使うことができます。

Web 上でホストされるヘルプコンテンツは、製品のリリースに関わりなく更新されます。最新のヘルプコンテンツについては、オンラインモードを使ってください。